

2025年度第3回あかしSDGs推進審議会 議事録

日時：2025年(令和7年)11月30日(日) 9:30～12:15

場所：明石市役所議会棟 大会議室

発言者	内容
1 開会	
事務局	ただいまより、2025年度 第3回あかしSDGs推進審議会を開催いたします。 審議会の開催にあたり、市長からご挨拶申し上げます。
2 市長あいさつ	
市長	<p>本日は皆様お忙しい中、朝早くからあかしSDGs推進審議会にご出席賜りまして誠にありがとうございます。</p> <p>皆様方におかれましては、日頃より市政にご理解、ご協力をいただいておりますこと、この場をお借りして心から御礼を申し上げます。</p> <p>今年度3回目となります審議会で、本日はあかしSDGs後期戦略計画案について、ご審議をいただきます。</p> <p>大切な会となっており、3つの分科会に分かれて、しっかりご審議いただくと伺っております。</p> <p>あかしSDGs後期戦略計画(案)は、審議会の皆様からのご意見に加えて、市議会の各会派からのご意見、また市民からも広くご意見をいただき、それらを踏まえて作成をさせていただいております。</p> <p>皆様には忌憚のない活発なご審議をお願いし、市民のための計画となることを心からお願いを申し上げまして、挨拶とさせていただきます。</p>
事務局	<p>本日の出席状況をご報告させていただきます。委員17名のうち12名の方にご出席いただいております。</p> <p>本日の出席委員及び市の出席者の紹介は、お手元の座席表にて代えさせていただきます。</p> <p>それでは議事に移らせていただきます。</p> <p>議事進行は坂下会長にお願いいたします。</p> <p>会長、よろしくお願いいたします。</p>
3 議事	
(1) 議題1 後期戦略計画(案)について	
坂下会長	<p>本日の会議では、素案に対してご意見いただいたことに関して、前回の会議であり時間がなかったこと、また素案の作成にかかる事務局からの説明が十分でないところがありましたので、各委員の意見を十分お聞きできなかったと考えております。</p> <p>そこで事務局にお願いし、委員の皆さんと個別に面談を行っていただき、一人一人時間をかけてご意見を聞き取っております。</p> <p>また、素案について説明が足りなかったという部分についての説明を行っていただ</p>

発言者	内容
	<p>きました。</p> <p>この件につきましては、事務局から多大なご尽力を賜れたことを深く感謝申し上げます。</p> <p>お手元の資料１は事務局より補足説明をした内容で、資料２は聞き取った意見をまとめたものです。</p> <p>意見については、事前に各委員に確認をしておりますので、この資料に書かれている内容については、審議会で正式にご発言いただいたものとしまして、取り扱いさせていただきます。</p> <p>その後、素案に対する意見を踏まえ、事務局に計画案の作成をしていただきました。</p> <p>まずは事務局より計画の修正案について、全体的に説明をしていただいた上で、皆様にご意見をしっかり発言していただきたいということで、３つのグループに分かれて審議を行います。</p> <p>審議後、この部屋に戻ってきていただいて、各グループで出た意見を共有し、全体の審議を進めていきたいと思っております。</p> <p>本日は計画案をまとめていきたいと考えております。</p> <p>終了予定は１２時になりますので、皆様のご協力を賜りたいと思います。</p> <p>それでは、事務局より議題１「あかしＳＤＧｓ後期戦略計画（案）について」の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>まずは、資料１、資料２についてですが、先ほど会長からお話がありましてとおり、前回の審議会後に委員の皆様と面談した際の資料と、個別面談でお聞きした皆様の意見を項目別にまとめたものになります。</p> <p>資料３は、素案に対して、市議会各会派からいただいた意見を項目別にまとめています。</p> <p>資料４は、素案に対して、１０月１日から３１日まで実施した「市民意見募集」の結果を、項目別にまとめています。</p> <p>１３名の方から８８件の意見をいただいています。</p> <p>これらの内容を踏まえ、前回提出した素案を修正し、計画案を作成しています。</p> <p>資料５「あかしＳＤＧｓ後期戦略計画（案）」の説明をさせていただきます。</p> <p>資料の修正を１箇所お願いいたします。</p> <p>３６ページをご覧ください。中段の主な施策内の上から３つ目の黒点、文化・芸術の推進の「（仮称）旧市立図書館跡地 地域交流センター」の次にひらがなの「に」を追加してください。</p> <p>資料の黄色網掛けされているところが、前回の素案から追加・修正した箇所となります。</p> <p>３ページの②総人口です。</p> <p>２０２５年１０月１日現在の人口が判明しましたので、記載しています。</p> <p>５ページをご覧ください。</p>

発言者	内容
	<p>重要業績評価指標（K P I）の達成状況ですが、前回の審議会で、達成度を分かりやすくするために、○△×で表示した方が良いとのご意見をいただきましたので、修正しております。</p> <p>14 ページの（3）後期戦略計画における重点事項（まちづくり戦略）ですが、前回の審議会で後期戦略における重点事項を記載していることが分かる項目名にするご意見をいただきましたので、項目名を修正しています。</p> <p>また、素案では、「対話と共創によるもっとやさしいまちづくりの創造～市民の笑顔があふれる明石市に～」と記載していましたが、SDG s 推進計画で掲げる目指すまちの姿と混同しやすいとの意見がありましたので、「対話と共創によるもっとやさしいまちづくりで暮らしに安心を生み出す」とし、重点化する内容が伝わる表現に変更しています。</p> <p>また、この「安心」は、目指すまちの姿である「SDG s 未来安心都市・明石」の安心であり、もっとやさしいまちづくりに取り組み、安心を生み出して、目指すまちの姿の実現を図っていくということを表現しています。</p> <p>15 ページの①「「こどもを核としたまちづくり」、「誰にもやさしいまちづくり」の深化」です。</p> <p>ここでは、全国的にも先駆的な取組として、あかしインクルーシブ条例や、ジェンダー平等推進条例を制定してきた経緯を記載してほしいという意見を受けて、その旨記載しています。</p> <p>同ページの②「目標人口 30 万人の維持に向けた取組の推進」です。</p> <p>こちらは、まちづくりの数値目標である、人口 30 万人の維持を打ち出そうとする市の意図を明確にするため、項目名を変更しました。</p> <p>また、近い将来、人口減少社会を迎えることが避けられない中、人口減少社会を迎えたとしても、安心して暮らすことができるまちづくりにも取り組んで行く必要があるとの意見をいただきましたので、その旨追記しています。</p> <p>さらに、素案では記載がなかった人口を維持するための取り組み例を下の表に追記しています。</p> <p>16 ページの③「対話と共創のまちづくりの推進」です。</p> <p>対話と共創について、自治基本条例との整合性についてご意見をいただきました。</p> <p>そこで、「コミュニティ元年」の宣言や、自治基本条例の制定など、これまで本市が市民主体のまちづくりに取り組んできたことを明記したほか、さらに、市民と共にまちを創っていくため、対話と共創のまちづくりを推進していること、また、この対話と共創が、自治基本条例で定めるまちづくりの基本原則である、「市政への市民参画」「協働のまちづくり」「情報の共有」を、より発展的に取り組んでいこうとするものであることを明記しました。</p> <p>18 ページ②「推進計画・後期戦略計画の体系図」です。</p> <p>中央部分、黄緑色で記載している部分については、先ほど説明した「後期戦略計画</p>

発言者	内容
	<p>における重点事項」の内容に修正しています。</p> <p>また、中央部の矢印ですが、素案では上から下に向けた矢印でしたが、後期戦略によるまちづくりによって、あるべき姿「SDGs 未来安心都市・明石」に近づいていくとの考えから、下から上の矢印に変更しています。</p> <p>19 ページ以降については、施策展開の5つの柱と主な施策について記載しています。</p> <p>主な施策について、前回の審議会以降、庁内で検討した新規拡充事業や審議会からいただいた意見などを基に、新たに位置付けた事業を追加しています。</p> <p>21 ページの柱1、展開の方向1の脱炭素社会の実現のKPIを「温室効果ガス排出量」とするか、「あかし脱炭素経営パワーアップ制度優良事例表彰者数」とするか、審議会としてお示ししたいと思えます。</p> <p>資料6はあかし脱炭素経営パワーアップ制度における表彰（案）についてです。</p> <p>前回の審議会では、表彰制度の基準を見た上で判断するということでしたので、資料6で同制度にかかる表彰基準案をお示ししております。</p> <p>学識経験者等で構成される審査会で審査され、資料裏面に記載のとおり、波及性、継続性、創造性、連携・協働、先進性、貢献度を審査し、一定の基準を超える者を表彰する予定です。</p> <p>資料5の21 ページ、展開の方向2のごみの排出量のKPIですが、目標値は個別計画「一般廃棄物処理基本計画」で定める目標値となっていますが、同計画は2027年度に改訂される予定であり、その際、今以上にごみの排出量を減量する目標を定める予定となっています。</p> <p>新しい目標が定められましたら、後期戦略計画の目標値もそれに合わせて修正する予定です。</p> <p>展開の方向3の公園緑地総面積のKPIですが、素案では参考値として、市民一人当たりの公園緑地面積を記載していましたが、2030年までは人口が増加する推計であるため、公園緑地総面積を推計人口値で割ると、当初値よりも目標値が低くなることから、公園緑地総面積のみ記載しています。</p> <p>28 ページの展開の方向2ですが、素案では「一人ひとりに応じた質の高い教育の推進」としておりましたが、インクルーシブの要素を明示してはどうかとのご意見を踏まえ、「個々に応じたインクルーシブで質の高い教育の推進」に変更しています。</p> <p>30 ページの柱3、展開の方向3「こども・若者の状況に応じた適切な支援」のKPIが、こども食堂の実施回数で対応しいのかというご意見を市議会からいただいております。</p> <p>そこで代替案として「将来の夢や目標を持っていると答える児童生徒の割合」を提案させていただきます。</p> <p>この指標は、毎年度実施している全国学力テストの際に行うアンケートの項目です。</p> <p>こども・若者の状況に応じた様々な支援を行うことで、こども達が、将来に夢や目</p>

発言者	内容
	<p>標を持って育つことができるよう環境を整備するという展開の方向に即した内容ではないかと考えておりますので、どちらのK P I が相応しいか、審議会としてお示しいただきたいと思います。</p> <p>40 ページの②－3「健全財政の推進」です。</p> <p>審議会でも市財政の持続可能性に関するご意見をいただきましたので、歳出の適正化に関する記載を充実し、市の取組方針等を追記しています。</p> <p>以上で、事務局からの説明とさせていただきます。</p>
坂下会長	<p>事務局からの説明に加えまして、本日は市長にもご出席いただいておりますので、あかしSDG s 後期戦略計画の策定にあたり、特に今回加えた14 ページの(3) 後期戦略計画における重点項目(まちづくり戦略)に関して、お考えをお聞かせいただきたいと思います。</p>
市長	<p>この度、明石市第6次長期総合計画のSDG s 未来安心都市・明石を実現するため、後期戦略計画を立てていただいているところでございます。</p> <p>私自身も、この明石市第6次長期総合計画あかしSDG s 推進計画を計画する段階では市議会議員として参画をしており、市民の声を聞き、誰1人取り残さないまちづくりを進めていくということが大事だと思いました。</p> <p>その時点で足りないのは、市民の声をしっかり聞き、市民みんなで、みんなの明石を作っていくことが必要だということを強く感じておりました。</p> <p>そうした中で、2年7ヶ月前に市民との対話の場として、タウンミーティングの毎月開催を公約に掲げさせていただき、市民の皆さんのご信託を得て、現在市長に就任させていただいております。</p> <p>市民みんなで、みんなの明石を作る、まさに誰1人取り残さないSDG s 未来安心都市・明石を作っていくという大きな命題に取り組む手法として、対話と共創を掲げさせていただいてる経緯や、様々な取り組みにつきましては、初回の審議会のときにもお話をさせていただきましたので、ご理解いただいていると思います。</p> <p>時間に限りもございますので、さらに進んでいる取り組みについて、お話をさせていただき、対話と共創によるもっとやさしいまちづくりで暮らしに安心を生み出すということが進み始めていることをご理解賜ればと思います。</p> <p>お手元に、資料を配らせていただいております。</p> <p>50 年前の1975 年に、当時の衣笠市長がコミュニティ元年を謳われまして、コミュニティのまちづくりが明石で根付いて参りました。</p> <p>そして2016 年には協働のまちづくり推進条例が施行され、まさに来年度、すべての小学校区でまちづくり協議会が立ち上がり、更なるスタートの年になるということで、今、協働のまちづくりのあり方についても内部で検討を始めさせていただいております。</p> <p>来年度にはまちづくり協議会でご活動いただいている皆さんの声もお聞きしながら、新しい協働のまちづくりの幕開けというふうに思っているところでです。</p>

発言者	内容
	<p>私自身が対話をさせていただくということを約束して、市長に就任をさせていただきましたので、2023 年市長就任後、毎月、いろんなテーマで対話の場を重ねさせていただきました。</p> <p>対話をすればするほど、市民ニーズや地域課題がクリアになっていき、それを実現していくには、行政だけでできることは限られています。</p> <p>そのため、産官学民の皆さんのお力を借りて、コ・クリエーションのまちづくりを進めることが「みんなの明石」に繋がると思います。</p> <p>そのため、対話と共創まちづくりの基本方針とし、コミュニティ元年から 50 年目の 2024 年に共創元年を謳わせていただいたところです。</p> <p>最初の 2 年間は、毎月テーマ別や地域別でタウンミーティングを開催させていただきましたが、もっと対話の場を広げ、共創の場も広げたいということで、対話は適時していけるよう、ワークショップやタウンミーティングを織り交ぜながら、現在までに 69 回、約 2,300 名の市民の方にご参加いただきました。</p> <p>さらに共創を進めるため、10 月 24 日から 11 月 1 日までの 9 日間を、「あかし対話と共創ウィーク」とさせていただき、市民の皆さんが「知りあい」、「語りあい」、「創りだす」をテーマに、まちづくりの基本方針である対話と共創によるまちづくりを市内外に発信し、出会いや学びあい、そして今後の共創のきっかけ、多様な人たちが繋がり合って明石をもっと、より良くするための新しい発想や価値を創り出す、「市民みんなで、みんなの明石を創る」機運を高めさせていただいたところです。</p> <p>お配りしてる資料の 2 枚目になりますが、最終日の 11 月 1 日に「共創プラットフォーム」を立ち上げ、今後は市民の笑顔が溢れるもっとやさしいまちを実現するため、行政や企業、市民などみんなの力で対話を通し、新たな価値をつくり出すための仕組みを創らせていただきました。</p> <p>対話と共創ウィークの詳細は、広報あかし 11 月 15 日号に詳しく書かせていただいています。</p> <p>市民ファシリテーターも養成しておりますので、まち協や様々な活動の場で、対話の場を持っていただき、成果も見せていただきました。</p> <p>全国から対話と共創のまちづくりを進めている首長の皆さんにも集まっていただき、「首長サミットの共同メッセージ」を出させていただきました。</p> <p>そして、そういったことを根づかせるため、この 9 日間で生まれた共創の種火を具体的な行動に繋げることが次のフェーズだと思っています。</p> <p>また、地域版タウンミーティングを進めさせていただいており、本日も午後から魚住中学校区で開催します。</p> <p>2024 年の 1 月から 6 月に、市内 6 つのエリアで地域課題や市民ニーズを把握するためのタウンミーティングを開催しましたので、今回はさらに細かく、市内 13 中学校区で開催するため、現在進めているところです。</p> <p>地域の皆さんと市の情報を共有させていただき、前回のエリア別のタウンミーティ</p>

発言者	内容
	<p>ングで出た意見をどれぐらい実現できたのか、また実現できていないところは、なぜできないのかということも一緒にディスカッションしながら、さらなる意見やアイデアを出し合うような、全体の対話の場でディスカッションをして、市民みんなの力でもっとやさしいまちづくりを進めていくための取組を市長として取り組んでいるところです。</p> <p>また、こども・若者計画をこどもや若者たちに作ってもらうという大きなチャレンジをしております。</p> <p>現在、6歳から29歳までのこどもと若者37名が委員となり、昨日6回目の会議を行い、対話を重ねています。</p> <p>会議は6回ですが、若者メンバーはこれとは別にワーキンググループを作っており、何度も集まって、6歳のこどもたちも一緒に対話の場に加えられるような工夫をしています。</p> <p>また、私と佐野副市長が、市内の小学校、中学校、高校、高専、県立大学の看護学部にもご協力いただき、ワークショップを開催して、こども・若者たちの声を直接聞かせていただきました。</p> <p>また、アンケートを実施し、15,000人のこども・若者から回答をもらい、それらを合わせて、計画案ができ上がる段階になりました。</p> <p>こどもたちの声で、こんな明石になって欲しいと望む声の中で、一番多かったのは、「安全、安心なまち」や「思いやりや助け合いができるまち」でした。</p> <p>本当に的を射ており、驚きました。</p> <p>こどもたちも明石のまちをつくる一員であると考え、自分ごととして計画を作っています。</p> <p>こういったことがこどもたちの中で起こる、これが対話と共創のまちづくりの根幹だと思っています。</p> <p>私は市長就任時から、市民みんなで、みんなのあかしを創るという柱をぶらさずに進めてきたと思っています。</p> <p>これからも、対話と共創で笑顔あふれるもっとやさしい明石のまち、暮らしてよかったと思う、市民の皆さんに思っていていただくような、みんなで助け合いができるようなまちづくりを進めていきたいという強い思いで、市政を預らせていただいています。</p> <p>まだまだお話ししたいことはありますが、時間に限りがございますので、以上にさせていただきます。</p>
坂下会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>市長が対話と共創を掲げてまちづくりを進められる姿勢ということが大変よく分かり、私たちも十分熱意を理解することができました。</p> <p>市長が対話と共創を大切にされてるところは、私たちも理解しておりますが、18ページの体系図に新たに加えられた文言が繰り返しの構成となっており、気になっ</p>

発言者	内容
	<p>ております。</p> <p>見取り図でこのような表現はあまり見ないものですので、どのようなお考えで重複させているのか、お伺いしてもよろしいでしょうか。</p>
市長	<p>今、お話をさせていただいたように、対話と共創のまちづくりというのはすべての施策に関わってきます。</p> <p>1つの計画をプランニングする際、市民の皆さんの声を聞いて進めさせていただいておりますので、全体に対話と共創に関わってきます。</p> <p>こういった取組は、大きな仕組みを作っていないと進めることができません。</p> <p>対話と共創のまちづくりの仕組みづくりである共創プラットフォームのように、仕組みを作っていくという大きな原動力となる取組を進めていくため、重点項目として掲げさせていただいています。</p> <p>組織の中でも、市民とつながる課や産官学共創課という担当部署を置いて重点施策として進めています。</p> <p>また、市民や職員をファシリテーターとして養成する大きな施策の柱ですので、この体系図に標記させていただいています。</p>
坂下会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、まずグループに分かれて、計画案について幅広く審議をさせていただければと思います。</p> <p>各グループでは、4つのポイントについて協議をしていただきたいと思います。</p> <p>1点目は、今申し上げた18ページの体系図について、この計画が世の中に出てくと独り歩きするものですので、その内容についてご審議いただきたいと思います。</p> <p>2点目は、21ページのKPIの代替案が出ておりますので、この代替案について考えていただきたいと思います。</p> <p>3点目は、28ページの展開の方向2の文言についてです。</p> <p>こちらは、本日ご欠席されているJ委員から、「個々に応じた」という表現がインクルーシブの中に既に含まれているため、「誰1人取り残さない」という2つセットで表現されるべきだというご意見ですので、こちらについてもご議論をお願いします。</p> <p>4点目は、30ページのKPIの代替案が出ておりますので、将来の夢や目標を持っていると答える児童生徒の割合については、ぼんやりはしていますが、目指すべきアウトカム指標になるのではと思います。</p> <p>以上の4点について、ご審議いただくことで、その後の議事がスムーズに進むかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>1時間程度のグループ討議と、そのあと1時間程度の総合討議という時間配分にしております。</p> <p>それぞれの意見を持ち寄り、最終的には話し合いを合議で進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、移動について事務局から説明をお願いいたします。</p>

発言者	内容
事務局	<p>それでは、ただいまから３つのグループに分かれていただきたいと思います。</p> <p>グループによる審議の座席表は、机上に配付させていただいておりますので、そちらでグループとお部屋をご確認いただければと思います。</p> <p>まずこの部屋を出て、向かいの部屋が第２委員会室となりまして、そちらには、中野副会長、Ｃ委員、Ａ委員、そして欠席者の関係がございますので、Ｂ委員に移っていただきたいと思います。</p> <p>右側が第３委員会室となりまして、そちらには、坂下会長とＥ委員、Ｄ委員、Ｆ委員とさせていただきます。</p> <p>そして一番奥の階段側のお部屋が、井上副会長、Ｉ委員、Ｇ委員、Ｈ委員ですのでよろしくお願いいたします。</p> <p>全体会の再開を１１時５分ごろに再開したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
グループによる審議（Ａ）	
中野副会長	<p>２８ページの展開方向２「個々に応じたインクルーシブで質の高い教育の推進」についてですが、インクルーシブというのが、個々に応じるという意味が含まれており、インクルーシブ教育の中に個別性を大切にすることが含まれているので、繰り返し表現は削除した方が良いのではないかというご意見をいただいております。</p> <p>これは削除してよろしいですか。</p>
	（３委員とも賛成）
中野副会長	このグループでは、「個々に応じた」を削除するという意見で提案させていただきます。
Ａ委員	インクルーシブの意味が分からない方もおられるので、用語解説をつけていただきたいと思います。
中野副会長	３０ページ「こども・若者の状況に応じた適切な支援」のＫＰＩについて、こども食堂の実施回数の代替案として、「将来の夢や目標を持っている」と答える児童生徒数の割合」が出ておりますが、これについてはいかがでしょうか。
Ｂ委員	<p>私は代替案には明確に反対です。</p> <p>ＫＰＩを設定するにあたり、主な施策として進めている事業の中で把握している指数の方が良いと思います。</p> <p>この将来の夢や目標を持っていると答える生徒を増やすために、こどもたちに対してどのようなアプローチを取るのか、主な施策からあまり見えません。</p> <p>こどもの夢を応援する取組として、明石の給付型奨学金があり、市内の中学校３年生約８,０００人に対して２００人の夢を応援する内容ですが、その取組が将来の夢や目標を持っていると答える生徒を増やすことに繋がるのかと言われると疑問があります。</p> <p>今日欠席されている委員の意見に、こどもが困ったときに相談できる人がいることや、いざという時に行ける場所が整っていることが分かる方が良いとありますが、私もこの意見に賛成します。</p>

発言者	内容
	<p>全国学力テストの質問事項から代替案を持ってきたと説明されましたが、困りごとや不安があるときに先生や学校にいつでも相談できるかという質問項目もありますので、そちらを代替案として提案します。</p> <p>先生や学校にいる大人と限定している点が相応しくないと判断されるのであれば、市が小中学生を対象に毎年アンケートを行い、周りに相談できる大人がいるかどうか、明石市が暮らしやすいかどうかを把握する必要があると考えます。</p>
中野副会長	代替案に反対でしたら、こども食堂の実施回数の方が良いということでしょうか。
B 委員	こども食堂の実施回数の方が良いと思います。
A 委員	この代替案が出てきているのは、こども食堂の実施回数が不適格ということなのでしょうか。
中野副会長	こども食堂の実施回数が限定されているので、より幅広い代替案が出ています。
A 委員	<p>将来の夢や目標とありますが、回答したこどもがどこまで考えているのか分かりません。</p> <p>夢という表現はあまり具体的ではないと考えます。</p>
C 委員	<p>どちらもあまり適当なK P Iではないと思います。</p> <p>こども食堂というのは、こどもの居場所や気づきの場、しっかりと食事が保障されている場のように、福祉的な要素を持ちます。</p> <p>こどもの貧困への支援は大切ですが、こども食堂を増やすことで、貧困家庭が広がっているのではないかとされるかもしれません。</p> <p>先ほど、B 委員がおっしゃったように、こどもの悩みを相談できる大人がいるのかということ測ったK P Iの方がいいと思います。</p> <p>また、こどもの夢や目標というのは抽象的であり、K P Iとして適切ではないと考えます。</p> <p>この中で選ぶのであれば、元のK P Iの方になりますが、どちらもあまり適当ではないような気がします。</p>
中野副会長	<p>全体の方でご意見を伺いたいと思うので、元のK P Iの方を提案することにします。</p> <p>次に 20 ページの脱炭素社会の実現についてのK P Iですが、現在の温室効果ガス排出量の結果が出るのが遅いため、パワーアップ制度優良事業者表彰者数という代替案が出ていますが、いかがでしょうか。</p>
B 委員	<p>温室効果ガスの排出量を特定することは、相応しいと思います。</p> <p>ただ、後期戦略計画は 2030 年で終わってしまい、次の長期計画に移る時の検証することを考えると、結果が出るのが 2、3 年ずれるのは良くないと思います。</p> <p>少し悩みますが、代替案でも大丈夫だと考えます。</p>
A 委員	<p>私も同じ考えです。</p> <p>結果が出るのに 2 年も 3 年もかかるものは検証が難しいと思います。</p> <p>ただ、代替案がどういう方をどのように表彰するのか分からないので、もう少し具体的にしていきたいと思います。</p>

発言者	内容
C委員	<p>結果が出るのが多少ずれたとしても、この代替案にはあまり納得できません。</p> <p>資料6で表彰の選考基準を説明されていましたが、脱炭素は企業側のコンプライアンスの問題であり、それを行政計画の目標値として取り入れるのは違うのではないかと思います。</p> <p>結果が2、3年遅れることは明石だけではなく、全国的にそうなっているので、明確な目標値を設定して脱炭素社会を実現するというのであれば、元のK P Iでいいと思います。</p>
中野副会長	グループの中で意見が分かれてましたが、どちらかを選びたいと思います。
A委員	やはり、結果が出るのが遅れるということが気になります。
C委員	<p>目標値を設定することは大事だと思います。</p> <p>結果が出るのが2、3年ずれることをどう判断するか。</p> <p>K P Iという目標値に、表彰者数を設定することは違うではありませんか。</p>
中野副会長	<p>K P Iとして掲げるには異質な感じですね。</p> <p>もちろん、表彰制度はあっても良いと思います。</p>
C委員	<p>表彰制度そのものが悪いわけではなく、実施したら良いと思います。</p> <p>企業の努力を活用することも1つの方法ですが、それをK P Iとして設定することはおかしいと思います。</p> <p>あくまでもK P Iは行政の取組によって得られた結果の数値を目標として掲げるものです。</p> <p>たとえそれが、2、3年のずれがあったとしても、全国共通の測定方法に問題があるのであり、明石に原因があるわけではありません。</p> <p>K P Iとして設定するのが相応しくないだけで、この表彰制度自体を否定するものではありません。</p> <p>温室効果ガスの排出量を削減することは大きな問題です。</p> <p>もちろん、排出量の大部分を占めるのは企業であり、大きな企業を対象とするために表彰制度を指標にする考え方もわかりますが、元のK P Iの方が適切だと思います。</p>
B委員	脱炭素社会を実現するのに、目標から温室効果ガス排出量を消すことになってしまうので、元のK P Iのままで良いと思います。
A委員	そう考えると、温室効果ガスを外すことは出来ません。
中野副会長	<p>それでは、グループとして温室効果ガスの方を提案します。</p> <p>次は18ページの体系図をご覧ください。</p> <p>前回の素案と比べると、合理性があるように改善していただいたと思います。</p> <p>後期戦略計画における重点項目の中で、対話と共創によるまちづくりという内容が重複しています。</p> <p>会長としては、計画の概略をこの1枚で表しており、市外にも出る客観性の高い資料となるよう整合性を持たせるため、重複している部分を修正したいと考えております。</p>

発言者	内容
	しかし、市長が対話と共創を進めていきたいという気持ちもよく分かるので、皆さんのご意見を伺いたいと思います。
C委員	<p>この3ヵ月、事務局は上手に計画を修正し、全体をまとめています。</p> <p>共創元年や対話と共創の第2ステージと言っているのは市長です。</p> <p>共創元年の宣言についても、市長が言っただけであって正式に宣言していません。</p> <p>コミュニティ元年は、市として認めた宣言であり、対話と共創元年とは違います。</p> <p>市長の任期もあと1年に迫ろうとしています。</p> <p>もちろん、対話と共創というキーワードを5年計画の中に入れること自体は良いと思います。</p> <p>また、16ページで、対話と共創のまちづくりが自治基本条例を基本原則としていることを前面に置いているので、私はこれで良いと思います。</p> <p>対話と共創というのは、自治基本条例の中から出てきた言葉だと私は理解しています。</p> <p>市長が市民と対話をすることは良いのですが、それは自治基本条例に基づいたものであり、どのような形で政策に生かされているのか見えるようにすればいいと思います。</p> <p>ただ、18ページで重複している部分については、これは市長の考えている対話と共創なのだと思います。</p> <p>体系図の中で、重複する表現を入れるよりも、ほかの文言にした方がすっきりすると思います。</p>
中野副会長	例えば、対話と共創が重複しているので、上段の「対話と共創による」という文言を削除して、「もっとやさしいまちづくりで暮らしに安心を生み出す」とし、下段の「対話と共創のまちづくりの推進」は残すというのはいかがですか。
C委員	<p>おっしゃるように、概念図としては同じものが繰り返しになるというのは概略としては適切ではありませんので、どちらかを消さなければいけないと思います。</p> <p>ただ、計画の根幹に関わるので、もう少し考えたほうが良いと思います。</p>
中野副会長	下段の3項目からの「対話と共創」を取り除いてしまうと、単なる「まちづくりの推進」となってしまうので、重点項目として成り立たなくなってしまうと思います。
A委員	<p>重複しているので、どちらか1つで良いと思います。</p> <p>市長の思いはよく分かりますが、後期戦略計画のここの表現としてはなくて良いと思います。</p>
C委員	<p>対話と共創が悪いというわけではありません。</p> <p>ただ、市長がおっしゃっている対話と共創は、市民が考えてたどり着いたものではなく、自分が宣言したから掲げているような気がします。</p> <p>いつ宣言し、誰がそれを認めているのか、全体会議で市長に聞くつもりです。</p> <p>1つの施策に自分の思いを載せることは良いと思いますが、この計画の中で表現することは別なのではないかと思います。</p>

発言者	内容
B 委員	<p>市長の話聞いた中では、重点項目の3項目はいずれも手段であり、その目的として「対話と共創によるもっとやさしいまちづくりで暮らしに安心を生み出したい」という思いだと感じましたが、上段の「対話と共創による」を削除して「もっとやさしいまちづくりで暮らしに安心を生み出す」でもいいと思います。</p>
中野副会長	<p>それでは、重複しない方が良いという意見にさせていただきます。</p> <p>17 ページまででご意見がある方はおっしゃってください。</p>
B 委員	<p>5 ページの、前期計画計画のK P I の達成状況ですが、2 番の「平均寿命と健康寿命の差」の当初値が男性は 1.35 年、女性は 3.04 年であり、目標値はそれらより縮小となっております。</p> <p>しかし、前期戦略計画では、当時の現状値が男性 0.45 年、女性 1.01 年であり、目標値はそれらより縮小でした。</p> <p>これは何か訂正が入ったのでしょうか。</p>
事務局	<p>前期戦略計画と後期戦略計画案の「平均寿命と健康寿命の差」の数値が異なる点についてですが、このK P I は国の統計データをもとに算出されるものであり、計画案の数値が最新となります。</p> <p>当初値よりも縮小させるという目標の方向性は変更しておりません。</p>
C 委員	<p>16 ページに「共創元年」を宣言し、とあります。</p> <p>市長は先ほど、2024 年度の施政方針で共創元年、それから 2025 年の施政方針で対話と共創の第2ステージに入ったと説明されました。</p> <p>また、後期戦略計画の中で、共創元年の宣言をコミュニティ元年の宣言や自治基本条例の制定と並べておりますが、これは違うと思います。</p> <p>市長の施政方針を後期戦略計画に入れるのであれば、宣言という文言を削除した方が良いでしょう。</p> <p>この後の全体会議の場で市長にどこで宣言したのか質問したいと思います。</p>
事務局	<p>コミュニティ元年の宣言が議会で議決されたとおっしゃっておりますが、実際のところ議決は経ておりません。</p> <p>当時、衣笠市長が広報誌で市民に向けてコミュニティ元年を進め、コミュニティを大事にすることをお示ししました。</p> <p>衣笠市長が宣言されたコミュニティ元年が、年月を経て市の宣言として歴史的に刻まれているのだと思います。</p> <p>共創元年につきましても、市長が広報あかし 2024 年 1 月 1 日号で市民に向けてメッセージを発信しております。</p> <p>市を代表するのは市長ですので、市長が発案し宣言したものは市の宣言と同じ扱いとなります。</p>
C 委員	<p>発案して宣言するのは市長ですが、それは誰かに認めてもらったのですか。</p> <p>市長であれば何でも発言できるということではないと思います。</p>
事務局	<p>市長が行ったことは市が行ったこととなりますので、市が共創元年を宣言したとい</p>

発言者	内容
	うことになるとお伝えさせていただきます。
中野副会長	全体会の時に時間があればお答えいただくことにします。 その他、ご意見はありませんか。
C 委員	15 ページに、前回は空白でしたが、人口維持をするための取組例が追加されています。 一概には言えませんが、人口 30 万人の維持を目指すため、自然増対策や社会増対策などの施策を講じて人口の減少を止め、維持するための取組なのでもう少し具体的にしていきたいと思いますと思います。 今まで言ってきたことの繰り返しのようなイメージだと感じたので、明石市が考えてる戦略をもう少し具体的に示していただきたいと思います。
中野副会長	分かりました。 15 ページの人口対策については、5 年間の具体的な取組を示していただきたいと思いますというご意見が出ました。 また、16 ページの共創元年の宣言についてもご意見がありました。 他になければ、後半の体系図以降について伺いたいと思います。
B 委員	31 ページの柱 4 「安全・安心を支える生活基盤を強化」についてですが、市議会からの意見にもあったとおり、防災を推進することは読みとれるのですが、災害の被害を減らす減災についても、言及したほうが良いと思います。 能登半島の地震で避難所が設営されていないというニュースを見ましたので、明石市においても避難所の設営マニュアルを作っていただきたいと思います。 また、37 ページに、主な施策「ふるさと納税の促進」と書かれておりますが、令和 6 年度の総務省から出たデータを見ると、明石市は寄付金を充当する寄付者に事業の進捗状況や成果報告しているかという質問に対し、担当部署と調整中のため行っていないと回答されておりました。 また、広告費の計上も 0 円となっておりましたのが、今後、ふるさと納税を促進するというのであれば、何らかの取り組みが必要だと思います。
C 委員	せっかく寄付してもらうのであれば、アフターケアまで必要だと思います。 明石はもっと納税してくれた人に対してコンタクトを取ることを考えていただきたいと思います。
中野副会長	31 ページは防災だけではなく減災についても加えるよう、避難所設営マニュアルを作成することについてのご意見でした。 また、37 ページはふるさと納税の促進をすることで、国の調査への回答が良くなるようにしてほしいというご意見でした。 これらのご意見は全体会で発表したいと思います。
B 委員	28 ページの主な施策に新しい部活動のカタチ「あかしタイム」の実施とあり、前期戦略計画にはありませんでした。 今回、後期戦略計画で出てきた部活動を今後どのようにするのか、全国的に議論さ

発言者	内容
	<p>れております。</p> <p>神戸市では先行して取り組まれておりますが、当然デメリットもありますので、早く進めることも大切ですが、慎重に進めていただきたいと思います。</p> <p>37 ページのK P I「図書館等での本の貸出冊数」ですが、現状値が 264 万冊、2025 年度の目標は前期戦略計画と同じ 320 万冊です。</p> <p>本の貸出冊数をK P Iにすることに異論はありませんが、現状と目標との差が 64 万冊もあるので、5年で達成することは厳しいのではないかと思います。</p> <p>320 万冊から 300 万冊へ修正するなど、目標値を再度検討していただいた方が良いと思います。</p>
中野副会長	<p>目標を変更するより、達成に向けて具体的な取組を示してほしいというご意見ですね。</p>
C 委員	<p>資料4の素案に対する市民意見募集の結果とありますが、8月の審議会の素案に対して意見募集を行っています。</p> <p>この素案については、審議会の中で様々な意見が出ており、十分な審議が出来ていないものをパブコメに出した意味が分かりませんでした。</p> <p>市民の意見は大事ですが、もう少しある程度の方角を決めてから、意見を聞いた方が良いでしょう。</p>
事務局	<p>パブリックコメントについては、第1回目の審議会で全体スケジュールをご説明しておりますが、計画素案と計画案を作成した段階で、それぞれ実施させていただきます。</p> <p>各委員からも反対などのご意見はございませんでしたので、予定どおり計画素案に対する意見募集を行いました。</p> <p>今後は、来年1月に計画案に対する意見募集を行いますので、よろしくお願いいたします。</p>
C 委員	<p>大型ハード整備事業として、新ごみ処理施設やスマートインターチェンジ、市民病院、旧市立図書館跡地などの整備計画が予定されています。</p> <p>資料1の5ページ「市の考え方11」では、個別計画で定めた各事業の是非を審議するものではないとありますが、まちづくりを推進する上での必要な視点や施策が足りているかどうか、優先的に取り組むべきかことは何かということをご議論いただきたいと書いてありますので、妥当性や正当性は別として、大型ハード整備事業に関する議論をすること自体は審議会の範囲を逸脱していないと思いますので提案します。</p> <p>まず、市民病院の建替問題ですが、もし地震が発生してしまうと市民病院は崩壊してしまいます。</p> <p>県立がんセンター横の駐車場を利用するとの意見も出ていますが、どういう形で進んでいくのか見えません。</p> <p>防災について検討する場では、災害時は大久保の医療センターを中心として市民対応に当たるべきだというご意見もありました。</p>

発言者	内容
	<p>市民病院の建替は喫緊の課題であり、もう少し具体的な方針を定めていただき、審議を進める必要があります。</p> <p>また、資料1の11ページ「市の考え方30」では、旧市立図書館跡地の新設の整備計画について、2025年に設計業者と契約後、設計業者の提案概要についてのワークショップを開催する、と記載してありますが、これは兵庫県のワークショップだったと思います。</p> <p>その中で方向性が出て、旧市立図書館跡地の利用計画が検討されたと思うのですが、明石市がワークショップや検討会議を行ったのでしょうか。</p>
中野副会長	<p>図書館や病院などの市のインフラについては、市民生活に大きく関係しております。</p> <p>この審議会では個別事業について議論する場ではありませんが、他で議論できる場は設けられているのでしょうか。</p>
C委員	<p>例えば、市の5年間の方向性を決める計画に対する市民からの意見について、ワークショップやタウンミーティングに参加した方から聞いただけであり、市民へ説明したというのは違うと思います。</p> <p>参加者の意見を聞くことも大事ですが、もっと開かれた場で市民に大きく訴えることが、対話と共創の精神が生かされると思います。</p>
事務局	<p>本計画における公共インフラに対する考え方をお答えします。</p> <p>計画案を作っている段階で、方向性が決まっているものについては、「整備」と記載しております。</p> <p>まだ方向性が決まっていないものについては、「整備に向けた検討」や「整備に向けた取組」と記載しております。</p> <p>先ほどの市民病院についても、「市民病院の再整備に向けた取組」という表現にしており、再整備とは謳っていません。</p> <p>こうしたインフラに関する記述については、現時点の状況に合うように配慮しております。</p> <p>次に、個別事業に関する意見を出す機会についてですが、施設を整備等計画する際に個別で審議会や検討会を設け、市民から意見を聞く機会を用意しております。</p> <p>新ごみ処理施設についても、数年前から専門家を交えて会議を開催しており、施設の規模などを検討していただいております。</p> <p>もちろん、その結果については市議会にお諮りし、議決を経て方向性が決まっているということです。</p>
市長	<p>新ごみ処理施設の整備に向けた検討として、令和元年8月から新ごみ処理施設整備技術支援会議を設置しました。</p> <p>4回の会議の中で議論を交え、一定の方向性や焼却施設の規模についてご意見いただき、市民の方や議会にもご説明をさせていただきました。</p> <p>また、庁内検討委員会や、第三者の立場として新ごみ処理施設整備・運営事業者選定委員会を設置して進めていただいております。</p>

発言者	内容
	<p>今回、規模の小さな炉になっており、ごみ減量に努めていただければならない処理施設となっておりますので、市民の方にご理解いただけるよう各自治会向けに指定ごみ袋の導入に関する説明会を開催しています。</p> <p>ごみ減量や資源化の取組である「ゼロ・ウェイストあかし」を謳いながら、市民とともに新ごみ処理場の整備に向けて進めていかねばなりません。</p> <p>また、旧市立図書館に関しましては、兵庫県の土地で、本来は、図書館がなくなった段階で撤去してお返しするところでしたが、県のご配慮で、漫然と同じ解体費を払うのではなく国の補助を得て、市の負担で新しい施設が建てられるのであれば、その期間は待っていただくということで、ご理解いただいております。</p> <p>今、市民や県民の皆さんにご意見を伺い、多目的施設を作る方向で進めております。</p> <p>また、市のワークショップを2回させていただいており、県と明石が共同で作っております「みんなの未来ミーティング」では、兵庫県立大学の先生にコーディネーターをしていただき、私や職員も一緒に案を出しております。</p> <p>市議会にも請願書が上がってきてますので、そういったご意見も含めて、案をまとめようとしています。</p>
C委員	<p>ごみ処理の技術は日進月歩で進んでおり、世界中が温室効果ガスを排出しないよう、ごみを出さない、燃やさないという方針に切り替わろうとしています。</p> <p>日本でも国を上げて政策が転換しようとしておりますが、明石もその流れに合わせる必要があります。</p> <p>2030年に整備を完了させ、2050年までのランニングコストは810億円という大きな数字が出ております。</p> <p>いろんな意見が出ておりますが、嫌な意見にも耳を傾けて進めていただくべきだと考えます。</p> <p>業者には必要な規模をリクエストしていただきたいと思います。</p> <p>また、旧市立図書館跡地についても、約17億円のうち、明石市が負担するのは約3億円とありますが、全て税金であることに変わりません。</p> <p>ランニングコストは明石市が負担しなければいけないため、そういうことも含めて整備の必要性について考える必要があります。</p> <p>スマートインターチェンジについても同じです。</p> <p>あれば便利かもしれませんが、距離の短い中でスマートインターチェンジを整備する必要があるのでしょうか。</p> <p>どこまでやるのか、市の最高の責任者として市長に決めていただきたいと思います。</p>
市長	<p>そういったことも含めて十分検討して進めているところです。</p> <p>ごみ処理場に関しては、明石で一番必要とされるものを熟考した上で進めておりますので、ご理解いただきたいと思います。</p>
中野副会長	<p>審議会の立場としては、しっかり方向性を見ながらワークショップや検討会を開いて着実に進めていただきたいと思います。</p>

発言者	内容
	もちろん、様々な意見があると思いますが、トップダウンで決めてるわけではなく、手続きを踏んでいただきたいと思います。
市長	<p>この計画では、新しいチャレンジとしてワークショップとタウンミーティングに来ていただく方を無作為抽出で選出しました。</p> <p>実際に来られたのは30名弱でしたが、初めて参加された方にも楽しんでいただけたので、そういう新しい取組にもチャレンジをしているということをご理解いただきたいと思います。</p>
中野副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、全体会に戻りたいと思います。</p>
グループによる審議（B）	
坂下会長	21ページのK P Iの代替案、「あかし脱炭素社会経営パワーアップ制度優良事例表彰者数」について、皆様のお考えはいかがでしょうか。
D委員	<p>事務局から説明を受けましたが、まだ表彰に至ってないこともあり、現実味がなく、表彰者数が増えることが良いのか分かりません。</p> <p>また、応募等される事業者がどれだけいるのかが見えません。</p> <p>表彰者数だけでは、全体的な取組が伝わらない可能性があります。</p>
E委員	<p>もともとの案の方が客観性があります。</p> <p>K P Iにするなら、あまり人の気持ちが入らないほうが良いと思います。</p> <p>代替案ではなく、4番目のK P Iとして追加するというのであれば良いかもしれませんが、現在のK P Iと入れ替えることには反対です。</p>
F委員	<p>私も表彰制度には違和感があります。</p> <p>平等に扱えるのかという点について疑問がありますし、表彰することで脱炭素社会に向けた課題をクリアできるわけではないと思っています。</p> <p>K P Iは数字で表すほうが分かりやすいと思います。</p>
坂下会長	<p>分かりました。</p> <p>それでは、代替案は採用しないということで、グループの意見とさせていただきます。</p> <p>続きまして、30ページのK P Iについて、こども・若者の状況に応じた適切な支援はこども食堂の実施回数ではなく、将来の夢や目標を持っていると答える児童生徒の割合にする代替案ですが、これについてはいかがでしょうか。</p>
	（3委員が頷き、肯定を表す。）
坂下会長	<p>皆さまから同意をいただきましたので、代替案の方を採用することをグループの意見とさせていただきます。</p> <p>続きまして、28ページの展開の方向2に「個々に応じた」インクルーシブとありますが、個々に応じることはインクルーシブの意味に入っているので、付ける必要はないというご提案が出ております。</p> <p>また、あえて明示するのであれば、「人々を分離することなく」という文言も一緒</p>

発言者	内容
	<p>に加えて欲しいというご意見も出ておりますが、付け加えてしまうと文章が長くなってしまいます。</p> <p>こちらについては、いかがでしょうか。</p>
E 委員	<p>同じ意味であることは分かりますが、インクルーシブだけ書かれていても高齢者には分かりにくいので、「個々に応じた」と付ける方が分かりやすいと思います。</p>
D 委員	<p>インクルーシブという言葉を理解されている方は付いてなくても大丈夫だと思いますが、高齢者はカタカナがたくさん出てくるので分かりにくいと思います。</p>
E 委員	<p>タイトルは短くコンパクトになってる方がいいと思うんですが、分かりやすさを優先するのであれば入れたほうが良いと思います。</p>
F 委員	<p>私は「個々に応じた」という文面を外した方が良いと思います。</p> <p>インクルーシブというのは、分け隔てをしないという意味から始まりましたので、あえて被せる形で「個々に応じた」という表記はしない方が良いと思います。</p>
E 委員	<p>タイトルをシンプルにするという考え方なら外してもいいと思います。</p> <p>すでに文章の中で「一人ひとりに応じたインクルーシブ」と書いているので、文章を読んでいただければ分かります。</p>
坂下会長	<p>いかがでしょうか、グループ内の意見をまとめますか。</p> <p>それとも別々で出させていただいたほうがよろしいですか。</p>
D 委員	<p>文章内で説明されていますので、外した方が良いと思います。</p>
坂下会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>タイトルはシンプルな方が良く、文章の中でしっかり説明しておりますので、グループとして「個々に応じた」の文言を外すことを提案させていただきます。</p> <p>続きまして、18ページの体系図および計画全体の修正箇所について、ご意見等ございましたらお伺いします。</p>
F 委員	<p>対話と共創についてですが、その言葉の意味や市長の考えも理解していますし、反対するものでもありませんが、コミュニティ元年は議会の議決を経たうえで宣言されました。</p> <p>対話と共創も議会で議決していただくことで、皆さん受け入れられるのではないかと思います。</p> <p>つまり、手続き上のことです。</p> <p>コミュニティ元年や自治基本条例は議会の議決を経ていますが、今回はそういう手続きをされるのか分かりません。</p> <p>総務常任委員会にもそういった報告は出ていないようです。</p> <p>私としては、そうされた方が分かりやすく、市民にも浸透しやすいのではないかと思います。</p> <p>対応と共創をやめましょうというのではなく、そういう手続きを取ったらいかがでしょうかと市長にお伝えさせていただきます。</p>
坂下会長	<p>この計画を立てる上で、市長の方針として掲載して欲しいというご意向だと私は理</p>

発言者	内容
	<p>解しております。</p> <p>計画書としてはいかがですか。</p>
F 委員	計画書としては前回より修正していただいております、かなり分かりやすいと思います。
坂下会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>他の方はいかがでしょうか。</p>
D 委員	<p>対話と共創の表現が重なっているというご意見ですが、それだけ市長が力を入れていると受け取りました。</p> <p>それをベースに市政を進めたいのだと思いますので、重なってること自体に違和感はありませんでした。</p> <p>これが施策として反映されると、皆さんの理解も深まるとと思いますので、このままでいいと思います。</p>
坂下会長	<p>私が引っかかっているのが、この計画案が意見を反映できる最終のものだということです。</p> <p>18ページの「後期計画における重点事項」の中で、対話と共創という同じ表現が繰り返されており、簡潔とは言えません。</p> <p>例えば、このスローガンが上位計画や個別計画等にも載せることは良いのですが、計画内の同じ項目の中で繰り返し出てくることはみっともなく、重複していることが気になります。</p> <p>先ほどおっしゃっていただいたように、あえて載せたほうが分かりやすいと捉えるのか、あるいは後の5つの柱で展開してるので、重複した項目はないほうがすっきりすると捉えるのかの違いです。</p> <p>以前、会長と両副会長から重複した項目を取ることを市長に提案しましたが、政策を具体的に見えるようにするため、掲載する必要があるとのご回答でした。</p> <p>しかし、すっきりさせるという意味では載せない方が良いのではないかと思います。</p> <p>また、30万人の維持に向けた取組の推進は目的ですが、対話と共創は手段であり、違うレベルの表現が混在してることに違和感があります。</p> <p>それぞれの政策を個々に説明されているときは気になりませんが、この図に凝縮されると整合性が気になります。</p>
E 委員	<p>人口維持の目標は妥当だと思います。</p> <p>少し本質から離れますが、市民の間ではごみ焼却場の問題が注目されています。</p> <p>この計画で大きいことを書いてしまうと、收拾がつかなくなってしまうのではないかと声をよく聞きます。</p> <p>例えば、18ページの展開の方向で循環型社会を掲げておりますが、その取組であるごみ処理の計画が大きいと、後々の負担になる可能性があります。</p> <p>詳細な目標や取組については個別計画で書き、この計画ではあまり書かない方が良いでしょう。</p>
F 委員	15ページの目標人口30万人の維持に向けた取組の推進について、計画素案の時は下

発言者	内容
	<p>表の取組例は空白でしたが、今回の計画案では各取組が記載されました。</p> <p>しかし、30万人を維持する取組としては、あまりにもざっくりした内容だと思います。</p> <p>取組だけが先走りしているように感じられ、30万人を維持する方法としては、もう少し詳しく説明した方が良いと思います。</p> <p>もちろん、行政側はそういう手段を持っているとは思いますが、市民に分かりやすく30万人を確保する方法を表現された方がいいと思います。</p>
坂下会長	<p>計画全体の修正、追加部分についてのご意見ありがとうございます。</p> <p>取組例がどのように作用して目標人口30万人を維持できるのか、もう少し具体的に示してほしいですね</p> <p>18ページの体系図についてご意見はありませんでしょうか。</p>
E委員	<p>パンフレットやチラシのようなキャッチコピーとして、30万人や100%という表現を用いることは良いと思います。</p> <p>ただ、数字を重視される方からすると、住みやすいと思う人が100%になるなんてあり得ないと思われるでしょう。</p> <p>1つの気持ちとしての表現という解釈をみんながしてくれるかは分かりません。</p> <p>また、目標の数字に引っ張られて過ぎてしまい、間違った方向に行くことは良くありません。</p> <p>正しいニュアンスで認識していただきたいと思います。</p>
坂下会長	<p>今後発出する時に工夫してほしいというご意見ですね。</p>
D委員	<p>読んだときに違和感はなかったのですが、改めて考えると、18ページには長期総合計画の目標や後期戦略計画における重点事項などがあり、どこにポイントを置いているのか伝わりにくいと思います。</p>
坂下会長	<p>こんなふうにしたらいいいという、分かりやすい代替案はありますか。</p>
D委員	<p>難しいと考えます。</p> <p>施策の展開ごとに個別計画が立てられ、各事業が行われていることは分かりますが、それらすべてを市民が把握することは難しいと思います。</p> <p>多くの方は、自分の興味・関心がないことについては分からないと思います。</p> <p>例えば、高齢者は学校の運営や不登校対策などを知らないと思います。</p> <p>ごみ問題についても同様に、ごみ袋が変わるという情報で止まっています。</p> <p>ごみを減らさないといけないという意識がある人もおりますが、実際は生活上に現れた変化しか認識できず、その裏でごみ焼却場の将来のことが話し合われてることまで気が回らないと思います。</p> <p>もちろん、市民の方に知って欲しいという気持ちはありますが、この一面だけで伝えるということは難しいと思います。</p>
坂下会長	<p>おっしゃる通りだと思います。</p> <p>市民との繋がりが見えないというご意見はすごく重要ではありますが、この計画の</p>

発言者	内容
	<p>性質上、抽象的にならざるを得ないことは仕方ありません。</p> <p>個別計画には市民の方に関係あるレベルまで作っていただき、具体的な取組の見える化までしてほしいというのが皆さんの意見でした。</p> <p>また、対話と共創をテーマにされるのであれば、具体的に何を実現していくかを明らかにすることで、市民の方にも現実性を持っていただけたと思います。</p>
F 委員	<p>市民向けにももう少し分かりやすくしたほうがいいかもしれません。</p> <p>私も何度か説明していただいたんですが、これを市民の方に理解してもらうのは難しいかもしれません。</p>
坂下会長	<p>すっきりとしないことは私も感じます。</p> <p>その点については同感ですが、具体的な代替案として用意できるものが今はございません。</p> <p>ですので、私たちからは「後期計画における重点事項」の中にある3項目を外した方が良いのではないかという意見を出したいと思います。</p>
E 委員	<p>インターネット上であれば、クリックするだけで関連する個別計画に飛ぶこともできますが、紙媒体では出来ませんので、一面でまとめるとすると、このくらいが限度だと思います。</p>
坂下会長	<p>皆さんの意見を整理します。</p> <p>まず体系図については、分かりにくいけれども、現状のままということで提出させていただきます。</p> <p>また、重複部分については、D委員はあまり気にならなかったというご意見でした。</p> <p>E委員も現状のまま3つ示していてもいいということでした。</p> <p>F委員はもう少し分かりやすくした方が良いというご意見でした。</p>
F 委員	<p>分かりやすくするためにも、削げるところは削いだ方が良いと思います。</p>
坂下会長	<p>私も削げるところは削いだ方が良いと思います。</p> <p>もともと複雑なので、何回も同じことが出てくるより、削げるところは削ぐという方針が良いと思います。</p> <p>では、F委員と私は、3つの項目はない方が良いのではないか、という意見で全体会議には臨んでいきたいと思っております。</p> <p>他にご意見がありましたら、重要だと思うものはグループの考え方として提案したいと思っておりますので、仰っていただきたいと思います。</p>
F 委員	<p>29ページに「こどもの夢を応援する取組」という文言がありますが、夢という表現に抵抗感があります。</p> <p>こどもにも様々な事情があります。</p> <p>こどもに夢を持ってもらうことはいいとは思いますが、夢を持てる子や探している子もあれば、夢を持ってない子や夢を探せない子もいます。</p> <p>その辺の配慮が必要なのではないかと思っています。</p>
坂下会長	<p>例えば、どんなふうに表現したら良いと思いますか。</p>

発言者	内容
F 委員	夢という表現を取っていただきたいと思います。
坂下会長	「こどもを応援する取組」にしてはどうかというご意見ですね。 人の感じ方はそれぞれだと思いますので、基本的には多くの方に不快感を与えない表現が良いと思います。
F 委員	明石市内でも様々な境遇のこどもたちがおり、親が亡くなったり、不登校で学校に行けないこどもがたくさんいます。 夢を持って頑張ろうと言うのはいいのですが、この計画に入れてしまうことで抵抗を感じる人もいます。 私がその立場であれば、市は私たちのことを理解してくれていないと思います。 違う言葉に置き換えるとしたら、例えばインクルーシブという表現も良いと思います。
坂下会長	「こどもの人生を応援する取組」とかはいかがですか。
F 委員	それも良いと思います。
坂下会長	夢というのが限られた人に限定してしまうとのご指摘でしたので、少し大きすぎる表現かもしれませんが、他の方のご意見をお聞かせください。
E 委員	こどもがこの計画を読む機会は少ないかもしれませんが、人生と言われるより夢と言った方が考えてくれているなと思うかもしれません。
坂下会長	他に分かりやすいものだと、将来とかでしょうか。
E 委員	こどもからすると、将来も人生も夢も曖昧な言葉です。 余談かもしれませんが、とある裁判で学生のときの将来の夢が石ころだった方がおりましたが、きっと夢が持てなかったと思います。 しかし、そうじゃないということを、大人側から発信する言葉として考えたときに、夢という表現でもいいのではないかと思います。
D 委員	夢という言葉は漠然としており、綺麗事だと感じられるかもしれません。 人生と書いても、こどもたちの人生を背負えるわけではありません。 どんなこどもも見捨てず、困ったらことがあれば相談できるという安心感を持ってもらえるような表現が良いと思います。
F 委員	私は光の当たらないこどもたちに注目して欲しいと考えています。 これは行政の仕事だと思います。 こどもプロジェクトなどにも出られないようなこどもたちは、そういった情報も入ってきませんので、様々な葛藤の中で日々を過ごしています。 明石はこどもを核としておりますので、そういった光の当たらないこどもへの支援が重要課題だと思います。 医療費などが無料になっても、光が当たってないこどもはたくさんいます。 不登校で学校に行けないこどもがたくさんいます。 それらを見逃して良いことばかり並べも、取り残されたと感じる方はいると思います。

発言者	内容
坂下会長	<p>他の言葉を置くのが難しそうなので、「こどもを応援する取組の推進」というのはいかがでしょうか。</p> <p>確かにF委員がおっしゃったことを感じられる方がいる可能性もありますので、このグループの提案として、夢という表現を取り除いてみてはどうかと思います。</p> <p>その後に続く文章に取組内容が書かれていますので、読み手も分かるのではないかと思います。</p>
F委員	こどもの前に「すべて」という言葉入れることはどうでしょうか。
坂下会長	<p>「すべてのこどもを応援する取組の推進」ですね、それは良いと思います。</p> <p>目指しているところが、SDGsの考え方を表現していると思います。</p>
D委員	<p>30ページにあるKPIの代替案ですが、「将来に夢や目標を持っている」と答える児童生徒の割合については、全国統一テストでアンケートの項目に入っているため、毎年新しい数値を見ることが出来ると説明していただきました。</p> <p>現状値を全国と比べると、明石市の小学生は平均より少し多く、中学生は平均より少し低い結果でした。</p> <p>この割合だけ見せられても、その数値が妥当なのかが分からないので、全国平均も併せて載せていただきたいと思います。</p> <p>また、展開の方向に「こども・若者」と書かれているのに、代替案には高校生以上の若者の数字がないことが気になりました。</p> <p>代替案の発想自体は良いと思います。</p>
事務局	<p>現状では、若者の現状を図れるような指標はありません。</p> <p>今、こども若者計画の策定に向けて進めておりますので、そういった個別計画の中で検討していくことも1つだと思います。</p>
坂下会長	<p>現実的に難しいということは分かりました。</p> <p>例えば、新型コロナウイルスが流行するようなことが起こると数値は下がってしまいますが、全国平均を参照値として示してもらうことで、現状を知ることが出来て非常にリーズナブルだと思います。</p>
E委員	<p>35ページに展開の方向1「地域産業の振興」がありますが、確かに大手メーカーなどはしっかりと取り組んでいると思います。</p> <p>しかし、中小企業ではSDGsを考えた経営をすることは難しいと思います。</p> <p>ヨーロッパではSDGsを考慮していない企業は納品できないことも聞いております。</p> <p>これは商工会議所の役割かもしれませんが、中小企業をサポートする体制が必要だと思います。</p>
坂下会長	<p>文中に「中小企業の基盤強化と円滑な事業継承を支援する」ということが書かれていますので、整備するという方針は出ています。</p> <p>この計画としては、これぐらいの書き方になってしまうのではないかと思います。</p>
E委員	分かりました、この計画ではこれで大丈夫です。

発言者	内容
F 委員	19ページの脱炭素社会の推進では、2050年にＣＯ２排出量と吸収量の均衡をとる「実質ゼロ」を目指すがありますが、2030年や2040年での目標値を示したロードマップを載せたほうが良いのではないのでしょうか。
坂下会長	今回は2030年までを想定した後期戦略計画の策定です。 おっしゃってるように長期ビジョンはすごく重要だと思いますが、この計画で示すのは少し違うと思うのですが。
F 委員	例えば、2050年までのロードマップを作るという文言を追加することは難しいのでしょうか。
坂下会長	おそらく、具体的なロードマップの作製は市や別の組織で作っていくのだと思います。 事務局の方でその辺りは把握されていますか。
事務局	関連する個別計画を改定するタイミングなどで、先を見据えたロードマップを立てていくことになります。 ＣＯ２削減については、地球温暖化対策実行計画だと思います。
坂下会長	この計画の中に、「地球温暖化対策実行計画でＣＯ２削減の見通しも含めて計画する」といった文言を入れることは出来るのでしょうか。
事務局	後期戦略計画の中では他の計画に対する言及をしておりません。 ご意見次第ですが、個別計画の内容について言及する必要性やバランスなどを考慮していただいたうえであれば、言及すること自体は可能だと思います。
坂下会長	18ページの体系図については、分かりにくいという皆さんのご意見であります。 これで違和感がないという意見と、この下の3つの重点項目を取り除くという2つの意見が出たことを報告させていただきます。 21ページのK P Iについては、提案代替案ではなく、反映時期が遅れるけれども従来通りのK P Iの方を採用することを提案します。 28ページは、タイトルはシンプルな方が良いため、「個々に応じた」という文言を外すようにし、文中で詳しく説明するように提案します。 30ページのK P Iについては、新しい提案を採用しますが、全国の平均を参考値として表示して欲しいというのと、今後、若者世代の数値を測る指標が出てきたら、それも含めてもらいたいというご意見をお伝えします。 29ページについて、こどもの夢とありますが、光の当たらないこどもにも光を当ててほしいというご意見がありましたので、夢と限定せず「すべてのこどもを応援する取組の推進」という言葉にさせていただくよう提案します。 19ページについては、脱炭素社会の推進の中で、2050年までにＣＯ２排出量と吸収量の実質ゼロを目指しているため、今後、具体的なロードマップを個別計画の中で立てていくという文言を追加して欲しいというご意見を提案します。 また、この後期戦略計画が具体的な施策に繋がっていくかが分かりにくいので、どんな計画が展開されるのかを市民に提供できるようにするご意見と、対話と共創元年

発言者	内容
	<p>を議会に承認してもらう手続きを取ることをご意見として賜りました。</p> <p>以上のご意見について、全体会議ではお伝えしていきたいと思います。</p>
グループによる審議（C）	
井上副会長	<p>まず、18 ページの「対話と共創におけるもっとやさしいまちづくりで暮らしに安心を生み出す」という見出しの下に、「対話と共創のまちづくり」が出ています。</p> <p>また、「こどもを核としたまちづくり」の下に「やさしいまちづくり」とありますが、「もっとやさしいまちづくり」と重なります。</p> <p>あとは 30 万人に向けた取組は柱 1 や柱 5 などに関連しております。</p> <p>この体系図について、皆様のご意見をお伺いしたいと思います。</p>
G 委員	<p>対話と共創がキーワードだということは分かります。</p> <p>坂下会長は見栄えのことを言っているかと思います。</p> <p>表現を変えるなら、先ほど市長が配付していた「首長サミットの共同メッセージ」の資料で、対話と共創の中身をより具体的に言い換えているので、その文言を利用させていただくと良いと思います。</p> <p>例えば、対話は「多様な市民が対等な立場で自らの思いを伝え、相手の思いを聴き、お互いを認め合う」、共創はさまざまな人たちで「新たな価値を創り出す」という部分です。</p>
H 委員	<p>先ほどのご意見に賛同します。</p> <p>対話と共創は全てに関わるため、計画内で重なる部分が出てくるのは仕方がないと思います。</p> <p>この体系図においても、重なる部分が出てきてしまうのは仕方がないので、先ほどが言われたように、文言だけでも少し工夫することで、目立たなくなると思います。</p>
I 委員	<p>文言は重ならない方が良いと思います。</p> <p>市民と対等という言葉については、パートナーシップという言葉の方をよく聞くので、個人的にはそちらの方が適していると思います。</p> <p>また、先日市長とお話をした際、市長の考えている対話と共創の中には、まち協などの地域を支えている方たちとの対話を想定されていないように感じましたので、今後 5 年間は地域で活動している方や団体とも対話を行ってほしいです。</p> <p>今後の市の関わり方が、パートナーシップを結ぶ上で重要になりますので、しっかりと地域の方を向いていただきたいです。</p> <p>ただ、この計画に関しては、事前に面談を 2 回していただき、我々の意見も反映されているのでこれで良いと思います。</p> <p>5 年間の計画なので、ひとまずこれでやってみたらいいのではないのでしょうか。</p> <p>3 年後あたりに審議会をされると思うので、その時に成果が出ているのか、もっと見直さなければならぬのかというところを考えたらいいと思います。</p> <p>SDGs は 10 年で終わります。</p> <p>恐らく、全世界の目標を別の言葉として用意されると思いますので、その時に検討</p>

発言者	内容
	したらいいと思います。
井上副会長	<p>ご意見として承りました。</p> <p>体系図の方は修正する方向で行きたいと思います。</p> <p>次に、21 ページの施策の展開 3「自然環境の保全と活用」の K P I の指標について、温室効果ガスの代替案として「あかし脱炭素経営パワーアップ制度優良事例表彰者数」が出てきていますが、これについてはいかがでしょうか。</p>
I 委員	<p>面談の時に代替案の説明を受けましたが、あまり納得できませんでした。</p> <p>どちらかというと、数値が出る温室効果ガス排出量の方が分かりやすいと思います。</p> <p>ごみの排出量も同じですが、企業と個人との排出量は、企業が占める割合が大きいです。</p> <p>この温室効果ガスについても、企業が占める割合かなり大きいので、企業と個人との排出量を分けて明記したほうが良いと思います。</p> <p>一般市民としては、企業がどのくらい排出しているのか気になると思います。</p> <p>また、企業と個人の割合を入れることで、企業も頑張りやすくなるのではないかと思います。</p> <p>ただ、温室効果ガスでそれを書いたら、ごみの排出量でも書く必要があるかもしれません。</p>
井上副会長	こちらのご意見について、事務局から回答はありますか。
事務局	<p>温室効果ガスの排出量については、前回の審議会でお配りした広報あかし 8 月 1 日号に「明石市の温室効果ガスの排出状況」という円グラフがあります。</p> <p>工場や企業である産業部門や民生部門の業務の合計は約 53.4%であり、全体の半分以上を占めています。</p> <p>また、民生部門の家庭が約 22.7%、運輸部門が約 18%となることから、その差は明らかです。</p>
G 委員	指標は客観的な方が良いと思いますが、この代替案が出てきた意図として、目標が到達できないことを回避するため、市独自の指標を設定することで、K P I の目標値を緩和できるという思惑もあるのでしょうか。
事務局	<p>温室効果ガスの排出量については、2 年から 3 年ほど遡った数値しかお示しできないことが事務局の懸念点でした。</p> <p>また、代替案については、どんな効果があるのかコミットできていない K P I であります。</p> <p>それらを踏まえ、3 年前の数値でも良いのか、現在脱炭素化に向けて取り組もうとしている企業の数分かれば良いのか、ご判断をいただきたいと思います。</p>
G 委員	<p>明石は川崎重工業株式会社を始め、多くの産業がありますので、温室効果ガスの排出量が一定量あるのもやむを得ないと思います。</p> <p>無理に排出量を下げること、産業に負担を強いることに繋がりがかねませんので、現実路線で良いと思います。</p>

発言者	内容
井上副会長	工場が多くありますので、厳しくしなくても良いかもしれません。
I 委員	この目標数値は頑張っている方だと思いますので、異論ありません。
事務局	この数値は国を参考にしたものであり、明石がどこまで頑張れるかという目標となります。
G 委員	世界情勢的にもアメリカやヨーロッパのEV技術は思ったほど進んでおらず、国の目標が周回遅れになる可能性もありますので、温室効果ガスのままで、今後は緩和する方向でいいと思います。
H 委員	数値の方が分かりやすいところと、明石には産業がありますので、数値としてはこれを目標にして、結果によって今後の明石モデルの目標を考えるので良いと思います。
事務局	2050 年のゼロカーボンとは国の方針で、二酸化炭素を全く出さないことではなく、二酸化炭素の吸収量と排出量を同じにする目標です。 それを割り戻して、2030 年は 48%減を目標にしています。
井上副会長	皆さんのご意見は一致しましたので、温室効果ガス排出量の目標を K P I とすることで、我々意見を伝えさせていただきたいと思います。 次に、30 ページの展開の方向 3「こども・若者の状況に応じた適切な支援」ですが、「こどもの居場所・気づきの拠点となるこども食堂の実施回数」の代替案として「「将来の夢や目標を持っている」と答える児童生徒の割合」が提示されています。 小学校 6 年生が 83.7%から 86%を超える、中学 3 年生が 66.1%から 70.4%を超える目標値とすることについてはいかがでしょうか。
G 委員	代替案は比率であるため、展開の方向性の「支援」という言葉と指標が一致していません。 展開の方向 2 でも書いてありますが、インクルーシブで多種多様なこども・若者がおり、元気に学校に通うこどもやそうではないこどももいます。 明石市ではフリースペースを設置しておりますので、こども食堂と組み合わせることにより、支援と指標が結びつくのではないかと思います。 K P I としては、こども食堂よりフリースペースの取組の方が適していると思います。
I 委員	こども食堂の中には、こどもたちの遊び場のようになっているところが多いと思っており、本当に困ったこどもの支援になっているのかと聞かれると疑問を持ちます。 日本では若い人の自殺やこどもが学校に行けないことをよく聞きますので、フリースペースでしたら、まさしく支援だと思います。 K P I としては代替案が良いと思いますが、支援とは違う気がしますので、別の言葉に変えたほうが良いかもしれません。
井上副会長	例えば、未来志向のこどもの育成という表現もあります。 活力ある市を作るため、こどもを応援することは重要です。 支援という言葉を使うのであれば、こども食堂が良さそうです。 また、支援以外の言葉に置き換えるのであれば、代替案でも良いです。
G 委員	こども食堂にこだわらないのであれば、常設フリースペースの設置支援などもあり

発言者	内容
	ます。
井上副会長	そういう場所でこどもたちに夢と目標を持ってもらえるように支援することができれば、将来的には明石を担う人たちへと成長してもらえる可能性があります、これであれば代替案の方はいかがですか。
G 委員	そういう捉え方であれば、代替案でも良いかもしれません。
H 委員	<p>こども食堂の実施回数は偏った目標となるため、代替案の方が全体のアウトカムを把握することができます。</p> <p>K P I は代替案として、こども食堂や不登校支援などの様々な個別事業がその下にあり、全体で結果を見れるようにした方が良いと思います。</p> <p>なので展開の方向の文言を修正していただきたいと思います。</p>
事務局	<p>展開の方向 3 は「こども・若者の状況に応じた適切な支援」となっております。</p> <p>この展開の方向で行われる支援内容は、29 ページに主な施策として記載しております。</p> <p>フリースペースの設置だけではなく、金銭的なことから、ヤングケアラーやケアリーバーなどの社会的な支援も含めて、様々な支援に取り組むことになっています。</p> <p>これらの支援に取り組むことで、こどもたちが将来の夢や目標を持って育つことが出来る環境を整えることが展開の方向 3 の内容となります。</p> <p>こどもたちが将来の夢や目標を持って育つことが出来る環境を続けるため、これらの K P I をご提案しています。</p> <p>指標は支援を行った結果ですので、達成に向けた取組自体は様々な内容を行っています。</p> <p>あくまでも K P I です、先ほどご意見をいただいたように取組に応じたアウトカムとして、変化や状況を表しています。</p>
井上副会長	<p>それでは、このグループでは代替案を提案します。</p> <p>これは毎年結果が出るのですか。</p>
事務局	<p>毎年行われている全国学力テストで、こどもたちにアンケートを取っており、その中の設問の 1 つになります。</p> <p>テストを受けたら必ず答えるものとなっております。</p>
I 委員	小学校と中学校と両方ある方がいいと思います。
井上副会長	<p>28 ページの展開の方向 2 「個々に応じたインクルーシブで質の高い教育の推進」について、「個々に応じた」という文言を削除した方が良いのではないかというご意見をいただきました。</p> <p>そもそも、インクルーシブ教育はこども一人ひとりに応じた学習支援で合理的配慮の提供と共に、誰もが取り残されずに教育を行うことが含まれてるので、インクルーシブの中に「個々に応じた」という意味が含まれるのではないかとご意見です。</p> <p>こ知らのご意見について、皆さんいかがでしょうか。</p>
G 委員	必ずしも市民全員が正しい認識を持つとは限りません。

発言者	内容
	例えば、少し説明的な表現になりますが、個々ではなく個性という文言に置き換えてはいかがでしょうか。
I 委員	<p>「個々に応じた」をつけてしまうと、知らない人からすると、インクルーシブは個人に手厚く対応するものだと思ってしまう。</p> <p>意味を理解している人であれば、全体で一緒にやっというとするものだと分かりますが、知らない人からすると特別支援学級が増えていくイメージを持つ方もいると思います。</p> <p>インクルーシブ教育は、同じ教室内でみんなが勉強できることを目指すものなので、正しい印象を持ってほしいと思います。</p> <p>先ほどのご意見のように、「個性に応じた」という表現であれば良い気がします。</p>
井上副会長	教育を分けてしまうイメージを持たせてしまう可能性はあります。
H 委員	<p>個々に応じることはインクルーシブの意味に含まれるのかもしれませんが、インクルーシブだけで言葉の意味を正しく受け取ってもらえるか分かりません。</p> <p>「個々に応じた」を付けてしまうことで、苦手科目を個別で教えてくれるのかと勘違いされてしまう可能性があります。</p> <p>例えば、「個性を尊重した」と置き換えることも良いかもしれません。</p>
I 委員	<p>「個性を尊重した」は良いと思います。</p> <p>「個性に応じた」だと、対応することを強要されている感じがあります。</p>
G 委員	「個性を尊重した」で良いと思います。
井上副会長	<p>「個々に応じた」を入れてしまうと、個別対応を求められる可能性があります、インクルーシブだけだと一般市民に浸透していないため、正しく意味を理解してもらえない場合があります。</p> <p>そのため、「個性を尊重したインクルーシブで質の高い教育の推進」という文言に修正することを、このグループの意見として提出したいと思います。</p> <p>それでは、先ほどのまとめになりますが、18 ページの重複部分については、「首長サミットの共同メッセージ」の資料から文言を抜粋して修正していただきたいということ。</p> <p>また、一般市民との対話だけでなく、地域の関係機関や活動者たちとも対話をしていただきたいという意見が出ました。</p>
I 委員	地域との対話だけではなく、次の計画を作る時に、全体的に見直していただきたいと思います。
事務局	<p>次は長期総合計画を策定することになります。</p> <p>3年後くらいから2年ほど計画期間を設けて策定しますので、先ほどのご意見はそこで反映してほしいということよろしいですか。</p>
I 委員	<p>一般市民だけではなく、地域の活動者とも対話していただきたいという意味です。</p> <p>計画については、3年後に見直し出来たら良いと思います。</p>
井上副会長	21 ページの脱炭素社会の実現について、温室効果ガスの排出量の方がK P I として

発言者	内容
	適しているという意見でした。
G 委員	国の規準ではなく、明石市独自の現実路線の目標を立てても良いと思います。
井上副会長	<p>分かりました。</p> <p>温室効果ガスの排出量の目標値を緩めても良いのではないかと、という意見を提出します。</p> <p>次に、30 ページの K P I については、こどもが将来の夢や目標を持って活躍できる方向性にしていただきたいため、目標値も拾いやすいことから代替案の方を採用することにします。</p>
I 委員	<p>展開の方向の「支援」という文言はどうしますか。</p> <p>K P I が割合なので、支援という表現と合わないと感じます。</p>
H 委員	「支援の推進」とすれば、施策を推進することで将来に夢や目標を持つと答えるこどもが増えることに繋がるのではないかと思います。
井上副会長	<p>それでは、「支援の推進」という文言に修正するよう提案させていただきます。</p> <p>次に、26 ページの展開の方向 2 「個々に応じたインクルーシブで質の高い教育の推進」についてですが、インクルーシブという言葉がまだ浸透していないことを鑑みて、「個性を尊重したインクルーシブで質の高い教育の推進」に修正することを提案します。</p> <p>「個々に応じた」という表現にしてしまうと、個別対応してもらえると感じる人も出てくるかもしれないので、「個性を尊重した」とすることで、インクルーシブという言葉の意味を理解してもらえるように落とし込みたいと思います。</p>
I 委員	<p>クラスの中にいろいろな子がいるように、お互いを尊重しながら、1 クラスの中で収まるようにイメージしていただきたいと思います。</p> <p>各小中学校に特別支援学級が増えており、特別支援学級と通常クラスを行ったり来たりするこどもが増えているのが現状です。</p>
G 委員	<p>以前は、我々が小学校の頃は知的障害のこどもが特別支援学級にいたイメージでしたが、知的障害でなくても発達障害や自閉傾向のあるこどもも特別支援学級に入ることがあります。</p> <p>また、当時は発達障害と診断されなかったこどもでも、現在は診断されることがあり、そういった子供たちの場所として特別支援学級が位置づけられています。</p>
I 委員	個別に見ていかなければいけないため、大変だという話をお聞きしています。
井上副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、全体会の方へ移りたいと思います。</p>
全体会	
坂下会長	<p>それでは、各グループからの意見を共有させていただきたいと思います。</p> <p>まずは中野副会長の方からよろしくお願いいたします。</p>
中野副会長	まず、18 ページの体系図ですが、市長のご説明をお聞きし、重点事項のキャッチコピーである「対話と共創による」という考え方、思いはよく理解できました。しかし、

発言者	内容
	<p>3つの重点事項のうち、「対話と共創」という言葉が重複しているという点においては、表現上、第三者が見たときに違和感をいだくと思うので、繰り返さない方がいいのではないかという意見でまとまりました。例えば、「対話と共創による…」というキャッチフレーズのところに書いてある言葉を工夫してはどうかという意見です。</p> <p>次に、21ページの柱1－1「脱炭素社会の実現」に関するK P Iについては、代替案である脱炭素パワーアップ制度について、企業として当然、脱炭素に取り組むべきであり、客観性の高い指標である温室効果ガス排出量の方が適切ではないかという意見でした。</p> <p>次に、30ページの柱3－3「こども・若者の適切な状況に応じた支援」に関するK P Iについては、現行のK P I、代替案のいずれもあまり適切とは言えないという意見があり、どちらかと言えば、こども食堂の実施回数の方がいいのではないかという意見にまとまりました。理由としては、「夢や希望を持ったと答えた児童生徒の割合」について、夢や希望という表現が抽象的であるというのが理由です。</p> <p>28ページの展開の方向2の項目名については、「個々に応じた」という文言を削除してはどうかという質問について、インクルーシブの中にも、個々に応じたという主旨も含まれることになるので、削除する方向でまとまりました。</p> <p>加えて、15ページの「目標人口を維持するための取組の推進」について、人口をこの5年間で減らさないよう、より一層、具体的な策を検討し、講じていく必要があるという意見がありました。</p> <p>次に、31ページの「防災、感染症対策の強化」について、防災とあわせて減災について言及すべきであり、特に、避難所の設営マニュアルを作るなど、もっと具体策を記載すべきという意見がありました。</p> <p>37ページの「ふるさと納税の促進」について、寄付者を継続的に支援するため、支援者へのフォローを実施すべきという意見がありました。</p> <p>28ページの「部活動の地域展開」について、メリット・デメリットがあるので先行事例を十分に検討して慎重に進めて欲しいという意見がありました。</p> <p>37ページの柱5－2「豊かな心を育む文化芸術の推進」に関するK P Iについて、図書館等での本の貸し出し冊数が目標値320万冊となっていますが、現状値と比べて非常に乖離があるので、目標値そのものをもう少し下げるか、冊数を増やすための具体策を書くべきではないかという意見がありました。</p> <p>次に、「対話と共創」について、C委員から、市長に直接、お聞きしたいことがあるということですので、よろしくお願いします。</p>
C委員	<p>対話と共創は、すごく大事なことだと理解していますが、本文中「共創元年を宣言し」と記載がありますが、この宣言は、市長がそう発信されたら宣言したことになり、市長が発信したことは市が宣言したことになると事務局よりお聞きしましたが、そこら辺をもう少し、表現を変更する必要があると思います。</p> <p>また、駅前タペストリーについて「対話と共創ウィーク」というのが、ずっと掲</p>

発言者	内容
	<p>げられていますが、そろそろ「SDGs 未来安心都市・明石」に戻してもいいような気がしています。</p> <p>この「対話と共創」という考え方が自治基本条例を基に、それを発展的に捉える考え方という理解していますが、それでよろしいでしょうか。</p>
市長	<p>まさに、自治基本条例を遵守するために、明石市に足りないことは何かと考えた際に、対話の場であると思っていました。そして、市長になってからも、十分ではないかもしれませんが、できる限り、精一杯のことをさせてもらっているところです。</p> <p>「共創元年を宣言し」という言葉について、コミュニティ元年の宣言がなされた同時の衣笠市長も、どんなコンセンサスを得た上で、宣言をされたのか、今、正確にお答えはできませんが、コミュニティを中心にまちづくりをしていくという当時の市長の強い思いがあったと思います。私も、そのマインドをしっかりと受け継いでいきたいと思っています。</p> <p>宣言という言葉に、条例で制定されているものではないという、ご懸念があるようでしたら、「表明し、」とか、「掲げ」といった表現でもいいと思います。ただ、市民によりわかりやすく伝えるということも、市長の使命でありますので、明石市は協働を超えた共創という概念を示させていただきたいと思います。</p> <p>なお、この「共創」についても、タウンミーティングにおいて、「これからの協働を考えていこう」と市民やいろんな団体の方々に集まっていただいて、これからは協働を超えた共創という、新しい価値を作っていくコ・クリエーションが、まちづくりには必要であるという話になりました。</p> <p>この共創というワードは、みんなで生み出した言葉ですので、広報あかしの1月1日号に、コミュニティ元年から50年を経た今年は、「共創元年」であるということをお示しさせていただき、市民と一緒にまちづくりをしていくことをさらにパワーアップしますということを発信させていただきました。ぜひ、この思いは汲んでいただきたいと思います。</p>
坂下会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、井上副会長、お願いします。</p>
井上副会長	<p>まず18ページの「体系図」について、皆さんのご意見としては、文言はできるだけ重複を避けた方がよいという意見で集約しました。また、本日、お配りいただいた資料の中に、対話と共創のまちづくりに関する首長サミットの共同メッセージというものがありませんでした。その中に記載されている言葉を体系図に盛り込んでどうかという意見が出ました。具体的には、1つ目が「対等の立場でみずからの思いを伝える」、2つ目が「新たな価値を作り出す」、3つ目が「未来志向のまちづくり」ということで、明石が将来に向かってどのように発展していくのかを分かるようにこの3つの視点を掲げてどうかという意見が出ておりました。</p> <p>あと、対話に関して、一般の市民との対話は行っておられるが、市と関係の深い市民団体との対話をもっとしっかり行っていただきたい、強化してほしいというご意見</p>

発言者	内容
	<p>がありました。</p> <p>次に、柱１－１「脱炭素社会の実現」に関するK P Iについて、こちらは端的に客観的な指標である方が好ましいという理由で、温室効果ガス排出量がいいのではないかという意見が出ました。</p> <p>また、この目標値である 48%削減という目標は、非常に厳しい数値だと思いますので、2030 年に達成できなかったとしても、市の政策が間違っていたということにはなりません。</p> <p>また、明石市には、工場や商業施設が、たくさんありますので、まちづくりとの関連性において、この目標をもう少し緩和してもいいのではないかという意見が出ました。</p> <p>次に、30 ページの柱３－３「こども・若者の状況に応じた適切な支援」に関するK P Iについては、こども食堂も非常に重要であると思うが、将来に活躍できる夢を持ったこどもたちがこれから生まれてくるためには、こどもたちにとって、この明石市で暮らすことが自分たちにとって明るい社会につながって欲しいということで、代替案のK P Iがいいのではないかという意見が出ております。</p> <p>また、「こども・若者の状況に応じた適切な支援」のあとに「推進」という言葉を付け加えて欲しいという意見が出ました。</p> <p>次に、29 ページの柱３－２の項目名ですが、「個々の」という個人個人を大切にするという意味とインクルーシブの包摂という言葉が真逆のことを示す言葉となっているため、「個々に応じた」は削除する方向ではないかという意見でまとまりました。また、インクルーシブという言葉がまだ一般的に浸透していないことから、「個性を尊重した」という言葉を付け加えてはどうかという意見がございました。</p> <p>あと、計画全体に対する意見として、5年後には、また計画を見直しし、バージョンアップを図っていくと思うので、現時点ではこの案で進めていただきたいという意見がありました。</p>
坂下会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは私たちが話したグループの意見をご紹介します。</p> <p>まず「体系図」について、特に気にならなかったという委員と、そもそも体系図は、全体的に文字が多く、さっと読んでもわかりにくいという意見がありました。また、このキャッチコピーとなる緑色で追加された部分と下の重点事項の重複が気になるということで、この３つの重点事項を除けば、すっきりするのではないかという意見が出ましたが、結果的に集約には至っておりません。</p> <p>次に 21 ページの柱１－１「脱炭素社会の実現」に関するK P Iについては、皆様のご指摘通り、代替案ではなくて、温室効果ガスの排出量ということで一致しております。</p> <p>また、30 ページの柱３－３「こども・若者の適切な状況に応じた支援」に関しては、こども食堂の実施回数は限定されているので、代替案のK P Iは抽象的ではあるけれ</p>

発言者	内容
	<p>ども、代替案の方が良いということで、皆さん賛成されました。ただ、この値がどんな意味を成しているのかがわかりにくいので、全国平均も付記してはどうかという意見がございました。また、小学6年生、中学3年生にしかアンケートを実施していませんが、今後、他の世代の指標も検討できたらいいのではないかとのご意見もありました。</p> <p>次に、28 ページの柱3－2の項目名について、項目名は、できるだけシンプルな方がいいのではないかとということで、「個々に応じた」というところは、本文中にしっかりと説明を入れるというところで、削除するという意見がまとまっています。</p> <p>その他の意見として、体系図について、計画なので抽象的にならざるを得ないが、市民感覚としては、これで一体何が起こってくるのかということがわかりにくいので、今後の取組として、この体系図の下に具体的な実施項目を展開するような形で市民に提供できたらいいのではないかとのご提案がありました。</p> <p>それから、「対話と共創」について、市長からもご説明くださったように非常に意味ある取組であるが、議会に諮った宣言という形ではなっていないので、今後、正式に市議会に諮って、明石市のアピールポイントにしていったらいいのではないかとご意見がありました。</p> <p>次に、先ほども同様の意見がありましたが、「目標人口を維持するための取組」ということで、もう少し、具体的な取組を追記してもらった方がいいのではないかとご意見がありました。</p> <p>また、29 ページの「こどもの夢を応援する取組の推進」とありますが、「夢」と言われると、光の当たらないというか、もう夢が持てない状況にいる子どもたちにとって、この夢がどういうふうに響くのがすごく心配であるというようなご意見があり、代わりに、「すべてのこどもを応援する取組の推進」という言葉に変えた方が、多くの人に受け入れやすいのではないかとご意見がありました。</p> <p>次に、脱炭素社会の実現ということで、2050 年までに実質ゼロを目指していくということですが、例えば、「2050 年を目指し、計画を立て」など、具体的な計画を立てていくことを前提とするような文言が入っていた方がより現実的ではないかという意見が出ました。</p> <p>私のグループからは以上になります。</p> <p>以上の意見を踏まえて、簡単どころから話を進めさせていただきますが、まず、K P I として、21 ページの「脱炭素社会の実現に関する K P I」については、現状値の把握に時間を要するけれども、前期戦略計画と同じ温室効果ガスの排出量でいいのではないかとということで、まとまっているかと思います。</p> <p>次に、「こども・若者の適切な状況に応じた支援に関する K P I」については、2つのグループでは、代替案が良いということでしたが、中野副会長のグループでは、どちらかといえば、こども食堂の実施回数の方が良いという意見でした。全体の意見というと、新しい代替案の方が適しているのではないかとご意見になるかと思います。</p>

発言者	内容
	<p>が、こども食堂の実施回数の方が良いという理由について、教えていただけますでしょうか。</p>
B 委員	<p>私はこの代替案には反対でして、今後の 5 年間で市が行った施策がこの K P I に反映されるものが K P I として良いのではないかと考えています。この代替案を採用した場合、実際どのような施策でもって、こどもに将来の夢や目標を持ってもらえるための施策を展開しようとしているのか、市の考え方をお聞きしたいです。</p> <p>全国学力テスト時のアンケートですと、この他にも、「困り事や不安があるときに、先生、学校にいる大人にいつでも相談できる」という項目もあります。状況に応じた適切な支援ということを数値で計るのであれば、こちらの方がより適切ではないかと思っています。</p>
事務局	<p>K P I を考える上で、アウトプットとアウトカムという考え方がございます。</p> <p>アウトプットというのは実際に取り組んだ事業の取組状況を指標として設定し、評価するもので、現行のこども食堂を何回開催したというという事業の実績でもって、事業の進捗を計ろうとするものです。</p> <p>一方、アウトカムという考え方がございまして、これはその施策の目的やゴールを踏まえて、どういう状況を目指していくのかということを想定して、事業の進捗を計ろうとするものです。</p> <p>アウトプット、アウトカムの K P I については、例えば、短期的な目標についてはアウトプットの指標が適していると言われており、例えば、1 年以内に、この水準まで取組を進めようとする場合に適しています。一方、長期的な目標を立てていく時には、アウトカムといった考え方で、例えば、温室効果ガスの排出量の議論と同じですが、温室効果ガスの実質ゼロという目標に対して、様々な取組を展開してゼロに近づけていく。そのための指標として、アウトカムの目標を設定するというのが、一般的と言われております。</p> <p>こども・若者の適切な状況に応じた支援として、具体的にどのようなことに取り組んでいくのかということは、29 ページに記載しております主な取組を例としまして、親の経済的な状況に依拠せず、進学の実現するための給付型奨学金の支給や学習のサポートがございまして、また、ご家族の介護をされるなど、家庭環境における負担を軽減していくという意味でのヤングケアラーの支援、また、養育される保護者がいないというこどもに対しては、社会的養護を進めていく取組など、こうした経済的、家庭的な理由を契機として、自分の夢や目標を持つことができないこどもがいないよう、市として支援を進めていきたいと考えています。</p>
坂下会長	<p>あと、もう 1 つの質問である「困り事や不安があるときに、先生、学校にいる大人にいつでも相談できる環境がある」と K P I についてはどうでしょうか。</p>
事務局	<p>たしかにご提案の K P I も適しているとは思いますが、こどもの相談先としては、学校や先生だけでなく、ご家庭や地域など様々な環境が必要であると考えています。このアンケートが、文部科学省による全国的なアンケートであることから、市独自で</p>

発言者	内容
	項目を変更することができません。そうした状況も踏まえて、「夢や目標を持っていると答えた児童生徒数」を代替案として提案させていただいた次第です。
坂下会長	いかがでしょうか。
B 委員	わかりました。
坂下会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、この「こども・若者の適切な状況に応じた支援に関する K P I」は、「将来の夢や目標を持っていると答える児童生徒の割合」にさせていただきます。</p> <p>次に、28 ページの「個々の状況に応じた」というところを除いてもいいのではないかという意見が多く意見だったと思いましたが、井上副会長のグループからは文言の言い換えのご提案もありました。いかがでしょうか。</p>
I 委員	グループの中でも話が出たんですが、インクルーシブという言葉自体が、まだ浸透してないので補足をした方が、一般市民は理解しやすいのではないかと思いますので、グループでは、個性を尊重したという表現を付け足せば、一人一人を尊重した形でクラスが運営されていくんだなということが分かりやすいと思ったところです。
坂下会長	ただ、J 委員もご指摘いただいていたように、インクルーシブの概念自体に、「個性を大切にする」という概念が含まれており、個性を大切にすることを謳うのであれば、「分離することなく」という表現もいれないと意味が不足しているというご意見がありましたので、展開の方向のタイトルとしては、「個々の状況に応じた」を除いてはどうかと思いますが。
中野副会長	こちらのグループでもインクルーシブという言葉はまだまだ市民に浸透していないので、用語解説の中で説明が必要であるという意見がありました。
坂下会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>では、「個々の状況に応じた」の表現は省くが、インクルーシブという用語については十分に説明をするということでまとめたいと思います。</p> <p>次に、「体系図」について、気にならないという方もいますが、体系図が表に出ていくときには、重複感が気になるという方が多くいらっしゃると思います。</p> <p>特に問題となっているのが「対話と共創」という言葉が繰り返されているというところで、私もそこが気になっています。皆さんからの出た意見としては、「対話と共創のまちづくりの推進」という重点事項の項目名を変えるという案と、体系図から 3 つの重点事項を削除する案、現行の計画案のままで良いという案が出ていて、ここが大変悩ましいところです。これについては事務局とも何度かやりとりをさせていただいた中で、「対話と共創」という文言は残して欲しいという強いご希望がありました。私たちの考えとしては、対話と共創が繰り返されるところで、まとまった体系図としては、違和感があるというのが多くの方のご意見だと思います。それを踏まえて、どのように考えられておりますでしょうか。</p>
事務局	前回の審議会からこの部分については、いろいろとご意見をいただいています。市長からも説明させていただきました通り、今、明石市が進めようとしている様々な施

発言者	内容
	<p>策に「対話と共創」という基本方針を持って当たっているところでした、市の立場といたしましては、市民の皆様が一番わかりやすい、キャッチフレーズとして、「対話と共創によるもっとやさしいまちづくりで、暮らしに安心を生み出す」というのを、これから5年間、市民の方にPRしていく所存ですので、その立場としてはこれを残させていただければ、非常にありがたいと考えています。</p> <p>もちろん、繰り返すことで、少し、分かりにくくなるのではないかとのご懸念については、この体系図をもって市民の皆様にご伝えていくのか、その時々に合わせて、一部抜粋するのか、また違う見せ方をした上でお伝えをしていくなど、工夫しつつ、わかりにくいというご懸念を払拭できるよう、引き続き、対応を検討していきたいと考えております。</p>
坂下会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>キャッチコピーの部分「対話と共創によるもっとやさしいまちづくりで暮らしに安心を生み出す」において、「対話と共創」が書かれていることについて、反対意見はなかったと思います。むしろ、3つの重点事項として示されている文言が、重複しており、皆さんが違和感を感じられていると思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>私自身も気になっており、後期戦略計画を他の方がご覧になったときに、整合性という意味で、何回も同じことが重複されているというのが気になりました。</p> <p>私たちは審議会として、市長に意見をまとめて提出させていただくという役割だと思っておりますが、この重複しているという違和感を、みなさんの総意として、どうしていくかというところで、何らかの合意ができたらと思いますが、いかがでしょうか。</p>
中野副会長	<p>審議会の附帯意見として、このままでも理解はできるが、この重複に違和感があるということを伝えていただくというのはどうでしょうか。</p>
坂下会長	<p>ありがとうございます。</p>
市長	<p>対話と共創が重なっているということですが、それについては、「やさしいまちづくり」も、「誰にもやさしいまちづくり」と言葉が重なっており、言葉の重ねが気になるということであれば、そこも重なっているということになりますので、皆さんのご意見などを踏まえて、対話と共創のまちづくりの推進のところに、言葉を追加するなど、工夫をさせていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。</p>
坂下会長	<p>ただ、もう1つ私たちの会話の中で出てきたのが、「こどもを核としたまちづくり」というのは、1つのまちづくりの姿だと思うんですが、「目標人口 30 万人の維持に向けた取組」というのも、いわゆる目標となります。一方、「対話と共創のまちづくりの推進」というのは、手段であって、この3つの目標のレベルが異なるという課題もあります。</p> <p>シンプルなほうがよりわかりやすいということで、先ほど、市長が言葉を足されてというお話もありましたが、私たちどもも対話と共創を掲げていくことは理解しています。</p>

発言者	内容
	<p>ただ文言として出てきたときのごちゃごちゃ感というかさらに柱も方向も、基本的にはまた類似した言葉が出てきてしまっているという点において、どうなのかなと思っていますところでもあります。</p> <p>変えたとしたら、井上副会長のグループから、いくつかの意見が出てきていますので、候補となりそんなことをご紹介いただけたらと思いますが。</p>
井上副会長	<p>先ほど市から配っていただいた共創の資料にもありますが、一番重要なのは価値を生み出すことで、市民の活動によって明石市の特色を生かした価値を生み出す、価値創造という考え方です。</p> <p>経済的な活動や市民活動によって、市がますます発展するというのが1点目です。もう1つが未来志向のまちづくりです。</p> <p>緑色で書いているところは、先ほど坂下会長がおっしゃったように、目指すべきところです。</p> <p>その手段として、3つの取組が存在します。</p> <p>気になるのは、対話と共創という同じ言葉が繰り返し出てくることは、図表としてあまり好ましくないという感想を持ちます。</p> <p>同じ意味でも言葉を変えて表現した方が図表作成の共通認識ですので、その辺りを少し考慮していただければありがたいと考えております。</p>
坂下会長	<p>事務局として、何かいい案はありますか。ここは重要な部分になりますので、今日、方向性は合意させていただきたいと考えています。</p>
事務局	<p>当初、この体系図を作成する意図というのは、長期総合計画、そして後期戦略計画がどういったもので項目立てられているのか、一目でわかりやすくお示しするためのものであると考えておりました。</p> <p>そういった意味で、重点事項として掲げております、キーワード、「対話と共創によるもっとやさしいまちで暮らし安心を生み出す」、も然りですし、そのあと重複していると言われています3つの重点事項についても、体系図にお示しすることで、一目でこの後期戦略計画には何が書かれてあるのかを表すことができると考えています。逆に3つの重点事項を取ってしまうと、一体何を重点事項として取り組むのか、計画に位置付けているのか見えにくくなってしまうという課題もあると認識しています。</p> <p>このことにつき、様々なご意見も頂戴しておるところではありますが、事務局として即答できるいい案がなかなかないと思っています。</p>
坂下会長	<p>わかりました。</p> <p>この点について、お1人ずつ、今どう考えているかということで、教えていただきまして、審議会の総意をまとめたいと思います。</p>
A委員	<p>わかりやすい方がいいと思うので、「対話と共創」は、1ヶ所に表現されれば、十分伝わると思いましたので、どちらかに記載すればいいのではないかと思います。</p>
坂下会長	<p>どちらかと言えば、抜いた方がいいということでよろしいでしょうか。</p>
A委員	<p>はい。</p>

発言者	内容
D委員	すっきりした方がいいというご意見は十分理解できるんですが、私個人的には、対話と共創のまちづくりに市の思いがあるということです。このまま残していただいても大丈夫かなと思います。
C委員	どちらかにした方が、すっきりすると思います。
E委員	デザイン上と同じことが書いてあるというご指摘は確かにわかるんですが、やはり言いたいことを伝えるということで、現状の通りでいいと思います。
I委員	どちらがいいとも言にくいですが、なかったらすっきりする。あったら、くどいという印象が残ります。
井上副会長	グリーンで書いてあるキャッチコピーの部分を太字にしてもらって、下の3つは記載しないということでどうでしょうか。
F委員	重複するよりも外してもらう方がわかりやすいということと、キャッチコピーのところは、大きくしてインパクトを与える方がいいのではないかと思います。
B委員	どちらかがいいとは言にくいんですけど、重要なところを強調したいという市の思いも、理解できるので、そのままで問題ないかなと思います。
G委員	<p>私はこの対話と共創というのがキャッチーなフレーズだと思いますのでまず、緑のところはこのままで。白抜きのところについては、今日、市長から配布していただいた資料にある共同メッセージの中に、いみじくもこの対話と共創がわかりやすく説明されているので、このエッセンスを抜粋して、「対話と共創（ ）」して記載してはどうかと思いました。</p> <p>対話と共創をわかりやすく説明しなさいと答案に対話と共創って書いたら多分×になると思うんです。だから、わかりやすく説明をした上で、残すということです。</p>
H委員	今、言われたように、対話と共創がすごく大切なところになりますので、むしろこの小さい枠の中に収めない方がいいのではないかな。全体に関わることでありますので大きいキャッチコピーのところにだけ残してはどうかと思いました。私も今日、市長サミットの共同メッセージを見せていただいて、対話と共創の内容がすごくわかりやすく、メッセージ性があるものだと思わせていただきましたので、むしろこの3つの内容をこの下のところに言い換えて納めていくのもいいのではないかなと思いました。
坂下会長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>全体的には抜いた方がすっきりするということなので、審議会の意見としては、3つの重点事項を抜くということをご提案させていただきます。</p> <p>どうしてもというところであるならば、この対話と共創は繰り返さないことが、審議会の決定とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
一同	はい。
坂下会長	<p>ではそのように、審議会としては、この件を決定したということにさせていただきます。</p> <p>その他の様々なご意見に関しては、基本的には文中の文言の表現の仕方とっておりますので、できるだけ反映していただければと思っています。細かい文言について</p>

発言者	内容
	は、会長、副会長にご一任いただければというふうに考えていますが、よろしいでしょうか。
一同	はい。
C委員	すいません。28 ページの主な施策の 1 番目、小・中学校における少人数学級の推進について、明石市には教育プランという計画がありますが、この計画とも連動して、進めていただきたいと思います。やはり少人数教育がどんどん進んでいけば、分け隔てない教育というのが、一層推進することができると思っておりますので、あかし教育プランと連動をお願いします。
坂下会長	ありがとうございました。 それでは、これをもちまして議事を終了したいというふうに思います。 最後に、事務局から事務連絡をお願いいたします。
事務局	長時間にわたるご審議、本当にありがとうございました。 今後、計画案については、来年 1 月に、パブリックコメントを実施する予定としておりますので、その点も申し添えておきます。
坂下会長	パブリックコメントでいろいろな意見が出てきた後の段取りを教えてくださいませんか。
事務局	パブリックコメントに対して市の考え方をお示しし、修正すべきところは修正し、最終的な計画案を作成する運びとなります。
坂下会長	その時に、審議会での審議を経るのではなくて、市としてどうしていくかということ判断するということでしょうか。
事務局	はい。そのとおりです。審議会としては、本日、計画案をまとめていただき、軽微な修正を経て、市にご報告をいただくということとなります。 この計画案に対する修正作業は、市が最終的に行っていくという流れになります。 なお、最終的に計画を策定した際には、各委員の皆様にも共有させていただきますので、よろしくお願いいたします。
坂下会長	ありがとうございます。
事務局	それでは以上をもちまして 2025 年度第 3 回明石 S D G s 推進審議会を閉会とさせていただきます。